内閣總理大臣殿

親展

警視總監西山志澄

貴族院ノ大勢ニ就キ

該議員ハ研究會[illegible]ヲ其議席ヲ開クニ同院

大勢ハ陽測左ノ如シ

研究會全部

木曜会全部

不二見会同上

丁酉会二分ノ一

以上ハ反對ニシテ過半数

[illegible]頗ル

[illegible]趨勢

[illegible]ス總

テ反對ニ立ツ上院議員ハ同院大勢ノ真相ヲ打明ケサルヿニ

乙秘第四六七號　十月八日

貴族院ノ大勢ニ就テ

錦織子爵議員ハ研究會派ニシテ其談片ヲ聞クニ同院大勢ノ豫測左ノ如シト

- 研究會全部
- 木曜会全部
- 不二見会同上
- 丁酉会二分ノ一
- 懇話会三分ノ一

以上ハ反對ニシテ過半數

如此反對派既ニ過半數ヲ占メ居レ𪜈懇話会ノ一部ハ頗ル機敏ノ運動ヲ爲シ居レリト

園田男ハ右ニ就テ曰ク或ハ然ラン然レ𪜈同院ノ趨勢ヲ彼是放言スル人アリト雖モ皆ナ確實ノモノニアラス總テ反對ニ立ツ上院議員ハ同院大勢ノ眞相ヲ打明ケサルヿニ

誓ニ居レリ如何トナレハ我カ硬派ニシテ優勢ナリト確定セ
ハ所謂買收策ノ流行ヲ慮リテノ故ナリ云々

秘

内務大臣伯爵板垣退助

内閣総理大臣伯爵大隈重信殿

急

必親展

内務省用

一 ……ニ於ケル旧自由派ハ其候補者ヲ齋藤安雄新井鬼司ト決定セシモ新井ノ辞退セシニ依リ更ニ堀越寛介ト決シ同

……ノ両名
……リ其ノ
……ル所以
……会シ第
……進歩
……シ又氏

秘

三十一年七月十九日接受機密報告抜萃

埼玉縣

一去ル十四日第三区選出前代議士長瀬清一郎新井啓一郎ノ両名ハ同区内有権者ニ対シ第十二議会報告書ヲ配附セリ其ノ要旨ハ議会ノ経過解散ノ顛末及増税案ニ反対シタル所以等ナリ

一去ル十六日比企郡松山町ニ於テ縣会議員町村長等集会シ第二区候補者ニ前代議士片岡粕谷ノ両人ヲ推ス事トシ旧進歩派ニ向テ交渉ヲ開キ飽迄目的ヲ達セントノ決議ヲ為シ又片岡ハ再選ノ希望ヲ述ヘタリト云フ

一第四区ニ於ケル旧自由派ハ其候補者ヲ齋藤安雄新井鬼司ト決定セシモ新井ノ辞退セシニ依リ更ニ堀越寛介ト決シ同

秘 親展

人及ヒ有権者輩ハ夫々通知セリト云フ国民派ハ小沢愛次郎酒巻敬之助ヲ推サントテ目下酒巻ハ交渉中ナリ又旧自由派ト国民派トノ交渉破談ハ選挙区ノ不利益ナリトテ一部ノ重立者ハ斎藤秘書官ニ依リ之カ調和ノ労ヲ執ラシメ再ヒ交渉ヲ開始セントシツヽアル意向アリト云フ

長崎縣

一本月十三日韓人金有鉉（曽テ内閣書記官タリシト云フ）徐焼惇ノ両名玄海丸ニテ釜山港ヨリ来リ朴泳孝ト会見セリ其会見ノ模様ハ頗ル秘密ヲ要スルモノヽ如ク又其談話ノ事実ハ韓語ナルヲ以テ之ヲ解スル能ハサリシモ其挙動ヨリ察スルニ朴ハ頗ル歓喜ノ色アリ想フニ世評ノ如ク朴ノ帰国ヲ周旋スルモノナランカ而シテ
右三名ハ十四日馬関ヘ向ケ出発シタリ

山口縣

一去ル十三日旧自由党員小河源一等廿三名山口町ニ相会シ左ノ事項ヲ議決セリ

一山口縣旧自由党員ハ憲政党組織ニ賛成ス

一党勢擴張ノ為支部設置、機関新聞ヲ設備スルコト等

福岡縣

一第六区選出前代議士永江純一ハ去ル六日山門郡宮ノ内村ニ於テ報告会ヲ開キ以テ議会解散前後ノ状況即チ自由党カ伊藤内閣ト提携ヲ絶チタル点ヨリ増税案ノ否決及自由進歩両党合同ノ顛末等ヲ演説セリ来会者四十五名アリ

又同人ハ第五区選出前代議士野田卯太郎ト共ニ去ル十二日三池郡大牟田町ニ於テ報告会ヲ開キ、永江ハ自由党カ伊藤内閣ト提携

ヲ絶チタル事情及進歩党ヨリ外交問題ニ関シ不信任問題ヲ提出シタルモ自由党ニ於テ之ヲ否認セシ所以等ヲ演説シ野田ハ財政問題ニ関シ躬ラ十分取調タルモ増税ニ由リテ財源ヲ求ムルニ非レハ政治ノ運行何如トモス可ラサルモノト認メタルニ依リ増税ニ同意ヲ表シタルコト等ヲ報道セリ出席者百五十餘名アリ

又第四区第五区内ニ於ケル国民派ハ去ル十二日久留米市ニ相會シ憲政党ニ加盟スヘキヤ否ヤノ件ニ付協議スル所アリ旧筑前協会員進藤喜平太等モ遊説トシテ出席セシカ八女郡ノ如キハ入党ニ反対シ議論百出遂ニ決定スルニ至ラサリシ又代議士選定ニ関シ協議スル所アリシモ一應前代議士佐々木正蔵カ再ヒ候補者タルノ意アルヤ否ヤヲ確メタル後選定セントテ十八日頃再ヒ会合スヘキニ決シ散会セリ

鹿児島縣

一本縣選出前代議士鮫島有馬有村佐藤麓ノ五名ハ去ル七日帰縣セリ依テ政友会員等ハ翌八日鹿児島市鶴鳴館ニ於テ慰労会ヲ開キタリ出席者三十餘名ニシテ議会ニ関スル報告ハ幹事会ニ譲ルコトニシ又其幹事会ハ本月十九日之ヲ開キ代議士候補者ノ豫選ヲ行フニ決シ散会セリ又本縣ニ於ケル議会解散后ノ政況ハ頗ル静穏ナリ

本紙ニ列挙スル各原書ハ警保局ニ保存シアルヲ以テ特ニ
其閲覧ヲ要セラルヽ氏ハ同局長ヘ御照會アリタシ

廿九年十月十六日接受機密報告抜萃

岐阜縣

一自由党員小室重弘ノ一行ハ本月九日吉城郡古川町劇場旭座ニ政談集会ヲ開ク聴衆凡二百五十名井上利右エ門ハ交通ノ便ヲ謀ルハ飛騨國ノ急務ナルコト小室ハ自由党ノ主義経歴ヲ演ベ又対党ヲ攻撃シ轉シテ戦後ノ経濟ニ及ヒ農工銀行航海奨励法等ノ効用ヲ略述シ夫ヨリ山林ノ事ニ論及シ無事閉会セリ引續キ町村長等三十七名ハ一行ヲ聘シ懇親会ヲ開キシモ別ニ演説等ナク散会シタリ

高知縣

地　秘

一県下自由党重立者ハ本月十日片岡健吉西山志澄ヲ土陽新聞社ニ招待シ交話会ヲ開キシニ片岡ハ別ニ重要ノ談話ヲナサス西山カ談話ノ要領ハ初メ伊藤内閣辞職ノ始末ヲ述ヘ夫ヨリ國民協会ハ未タ方針確定セサルモ会員ノ多数ハ硬派ニシテ現政府ニ反対ナリ、進歩党員鈴木重遠ニ交渉シタルニ同人ハ我党ノ方針未タ決定セサルモ場合ニヨリテハ貴党ト幾分ハ提携スルコトアルヘシト語レリ我党今後ノ方針ハ先ツ板垣伯ハ陰然総理トナリ同伯ハ旧大臣其他貴顕方ヲ又政務委員ハ貴衆両院議員中無党派ノモノヲ集合スルノ運動ヲナス筈ナリ、伊東末松二氏ハ自由党機関新聞ノ記事ハ過激無責任ノコトヲ掲載セサル様注意アリタシト云ヘリ、第十議会ハ無論解散セラルヘシト云々

千葉県

一代議士進歩党員小原金治同党員平田倉次郎秋山房次郎外五名ハ去ル十一日安房郡北条町ニ会合シ安房立憲改進党ヲ解散シテ進歩党ニ合同スルコト本部派出員差支ナキ時機ヲ談テ集会ヲ開クコト等ヲ協議決定シタリト云フ

岩手県

一胆沢郡進歩党員高梨盛一ハ過日同地ニ自由党員林有造ノ政談集会アリシ為メ之カ対抗運動トシテ遊説員派遣ノ儀ヲ本部ニ請求セシカ本部ヨリ第十議会閉会後ニ派遣スル旨回答アリタル趣ナリ

鳥取県

一氣多郡勝谷村譲傳寺住職須和文孝ハ本月八日米國人ゴル

ドン等カ同郡鹿野村ニ催セシ耶蘇教演説会ニ於テ漫ニ質疑攻撃ヲナシ遂ニゴルドントト格闘セントシ聴衆ハ喧騒シテ須和ニ聲援ヲ与ヘ甚タ穏カナラサル趣駐在巡査聞知シ直ニ臨場シテ先ツ聴衆ヲ制シ両人ヲ引分ケントスルモ須和ハ聞入レサルノミナラス暴言ヲ吐キテ巡査ヲ侮辱シ其職務ノ執行ヲ妨害セシヲ以テ同人ヲ官吏侮辱犯トシテ司法処分ニ付セリ

鹿児島縣

一縣下同志會ハ新内閣組織後中央部即チ進歩党ノ運動方針ニ傾注シ其詳報ヲ待チツヽアルモ代議士長谷場純孝ヨリハ極メテ簡単ナル報道ニ止リ隔靴掻痒ノ感ニ堪ヘサルトテ委員ヲ上京セシムルコトニ決シ鮫島相政柚木慶二其選ニ当レリ尚獨立倶楽部派ハ交渉セシカ孩貴等ノコトヨリ謝絶セラレタリ両派ノ新内閣ニ於ケル意向ハ反対スル模様ナク頗ル得意ノ色アリ

我ガ總務委員ハ俊傑ノ士ナリ總務委員ハ敵ニ對シ機先ヲ制スルコト三ケ条アリ即チ外交着手財政整理諸事擴張ト云フコト之ナリ反對党ハ我黨ガ之レヲ提出スルニ至ラバ必ス現内閣ハ何レモ我党ニ反抗ヲ試ミテハ大ニ恥ヅルコトナリ故ニ我々總務委員ハ三ケ条ヲ大ニ研究中ナリ俊傑ガ事ヲナスニ於テハ追テ機先ヲ制ス故ニ反對党ハ我党ヲ指シテ簡務ナリト云ヒ或ル新聞紙ノ如キハ今回我同志ガ分離ナシタルコトニ就キテハ我党ニ黒幕アルコトナラント云フモノアレトモ決シテ我党ハ黒幕ト云フ卑劣手段ハ毫モナシ唯機先ト云フノ点ニ於テ勝利ヲ得タルナリ我党總務委員ハ此ノ態度ニ因ツテ進行スルノ方針ニシテ又党員諸君ノ内ニモ種々ナル意見ヲ抱カルヽアランガ今後ハ其意見ヲ總務委員ノ手元ニ提出アリタシ總務委員ハ於テモ用捨ナク諸君ニ向ツテ意見ヲ提出スル積リナリ云々夫ヨリ宴会ヲ开キタルガ酣ニシテ武部申策幕下ノ壮士ハ携帯スル仕込杖ヲ以テ星ニ詰問スル處アリトテ起ケタルガ夫ヨリ壮士間ニ於テ聊カ紛擾ヲ起シタルモ他ノ為メニ支ヘラレテ止ミ同九時無事散会シタリ

警視總監西山志澄

内閣總理大臣殿

必親展

昨

集

各自其縣下ノ地價高低等

間ニ各

セリ

乙秘第五五七號　十一月八日

柳屋ニ代議士集會

昨七日午後一時頃ヨリ日本橋區呉服町柳屋ニ
木村誓太郎　坂東勘五郎　橋本久太郎
加藤六藏　長坂重孝　外五名
集會シ左ノ談話ヲ為シタリ

木村曰ク　愈今回政府増租案ヲ提出スルノ形勢ニナツタカ通過セシムルカ如何

加藤曰ク　地租増徴ハ困ル僕ノ國ナツハ地價修正ト言フ事ハ是認シ居ルモ増租ハ大ニ反對ナリ

某曰ク　均一目的論トスレハ修正ヲ先ニセンケレバナランニ併シ増租案ヲ否決シテ地價修正案ヲ出シテ通過セバ如何

各自其縣下ノ地價高低等ノ説ヲナシ結局内閣ノ模様モアレハ其間ニ各熟考次会ニ決スル事ニセント定メ同二時三十分一同散会セリ

乙秘第四九三號　十月十五日

舊進歩派

憲政黨志壯士近来ノ擧動（乙秘第四九二號参照）ハ来ル廿三日ニ大運動會ヲ催シ青年ノ元氣ヲ鼓吹スト言フト雖其ノ實舊進歩派壯士カ在朝諸先輩ヨリ多額ノ金員ヲ乞ヒ自家衣食ノ資ニ供セントスルノ野心ニ出テタルモノニシテ自由派壯士ノ多數ハ之ヲ暁リ知ラサルモノヽ如シ最モ彼等ハ三條ノ決議ヲ為シ其決議實行ヲ内閣ニ威迫強請スト言ヘハ或ハ彼等ノ言質ト幾分カ過激ノ動作ヲ為スニ至ルヘキノ之ナキヲ保スヘカラスト雖今日ノ形勢ヨリ之ヲ観察スルニ左程大ヒタルコトハアルマジト思ハル

舊自由派

憲政黨志青年會ノ大運動會ト称シ松村猪三郎、京十目吉等カ晝夜奔走シ居ルニ拘ハラス三多广其ノ他関東倶樂部所属ノ壯士恬然トシテ動カス彼等ハ自由派前途方針ノ未タ決定セザルカ為メニ暫ク観望ノ位置ニアルモノナレハ各團体ノ向背一定スル以上ハ

猛然トシテ起ルコトナラント思ハル

舊盟進社

遠藤秀景カ犬養毅ノ内囑ヲ受ケ金七百円ノ運動費ヲ得北信八州會ヲ割キ北陸倶楽部ヲ新設セントスルノ折ニハ數名ノ同社員ノ上京シ居ルヲ認メタルモ目下上京中ノモノ黒田義雄、小島銀三郎、木吉九十郎ノ三人ノミ大會間際ニ至レハ重テ嘯集スルコトナラント思ハル

隈内閣總理大臣殿

必親展

警視總監西山志澄

乙秘第四一二號　九月十四日

新政党組織ニ関スル集會

昨十三日午後六時ヨリ日本倶楽部(麹町有楽町元東京ホテル)ニ

和田彦次郎　藥袋義一　牧朴眞　荒川邦藏

大野亀三郎　岡内重俊　滝本諫一　曽禰荒助

二宮熊二郎　松平正直　元田肇

等十余名會合(本集会ハ曽禰荒助ノ催告ニ係ル)セリ右ハ過般来新聞紙上ニ傳説スル新政党組織ノ件ニ関シ種々熟議ヲ凝シタルモノニシテ議論左ノ数派ニ分レテ決セス他日更ニ集会ヲ催シ再ヒ協議スルコトニ決シテ一同散會セリ

一 国民協會ヲ中堅トシ之レニ貴族院議員中ノ研究、木曜ノ両會員ヲ加ヘテ一新政党ヲ組織シ以テ現内閣ニ當ルヘシ

二 研究木曜ノ両會員ハ今内情ヨリ見ルモ亦タ其他ノ関係ヨリスルモ奮ッテ政党ヲ組織シ得ルノ勇氣ナキノミナラズ加盟シ得ル者モ鮮ナカルベク到底両會ヲ力トシテ政党ヲ組織ス

ルコトハ難カルナラン

三 研究、木曜両會員ヲシテ縦シ政党ヲ組織シ得ルノ望ミアリトスルモ素ト是レ華冑若流ニシテ曽テ政党上ニ於ケル経歴ナク謂ハヾ烏合ノ衆ノミ草創経営豈能ク磐根錯節ノ器アランヤ

故ニ更ニ自進両党ノ分裂ヲ待テ自由党及薩派国民協会ヲ糾合シテ政党ヲ組織スルニ及カズ

以上

乙秘第四九四號　十月十日

憲政党青年会大運動会ヲ開クノ真相

本月廿三日ニ開クヘキ憲政党青年会大運動会ノ真意ナリトテ此ノ運動会ノ為メ奔走スルモノハ語ル處ヲ聞クニ内閣大臣ハ吾々青年ヲ踏臺トシ一度要路ニ立ツヤ吾々ヲ度外ニ置キ一ツモ吾々ノ意見ヲ顧ミル所ナキガ故ニ吾々ハ鬼嚇的此ノ大運動会ヲ開キ併セテ内閣ヲ刺戟スルニ足ルヘキ極メテ過激ナル三條ノ決議ヲ為シ其實行ヲ内閣ニ強要シ若シ聴カレスンバ内閣破壊ノ手段ヲ採ルノ止ヲ得サル場合ニ至ルヲ知ルヘカラズ而シテ三條ノ議案ハ深ク秘シテ發表セス其發表セサル所以ハ唯之ガ為メ警視廳ノ干渉ヲ招クト首相以下ニ對スル出金募集ニ妨ケアルトヲ恐ルヽガ故ノミト云々

大隈内閣総理大臣殿

必親展

警視総監西山志澄

…ニ勢力ヲ得ツヽアルカハ列席諸君ニ於テモ充分知得セラルヽコト

ナルベシ故ニ今回ノ会ハ他日我党ガ飛躍スルノ前兆ニシテ我党ハ

乙秘第五四九號

新憲政党懇親会　　十月二十日

昨日午後四時頃ヨリ紅葉館ニ於テ憲政党ノ懇親会ヲ開キタリ議顕周一良ハ開会ノ趣意ヲ述ヘテ曰我憲政党ハ昨日ヲ以テ解党シ新憲政党ヲ組織シタルハ正ニ機先ヲ制シタルニアリ彼ノ反對党ヲシテ也ツルコト能ハサラシメシハ我党為メニ愉快トスル處ナリ凡ソ戦ヲ為スニハ機先ヲ制スルコト最モ必要ナリ我同志諸君ハ憂國ノ衷情ヨリ出テヽ憲政党ヲ組織セラレシモノナリ依テ其行動ニ於テハ静カナルコト林ノ如ク動カサルコト山ノ如キノ態度ヲ取ラ輕忽ノ擧動ヲ謹ムト共ニ益々鞏固ヲ謀ラサルヘカラス今回我党ヲ組織シタルニ付テハ反對党ヲシテ呆然タルニ至ラシメシハ実ニ愉快ナリ本日ハ幹事發起トナリテ懇親会ヲ開キタルニ其出席者凡ソ百名位ト豫想セシニ已ニ百名以上ニ達シタルハ我党カ如何ニ社会ニ勢力ヲ得ツヽアルカハ列席諸君ニ於テモ充分知得セラルヽコトナルベシ故ニ今日ノ会ハ他日我党カ飛躍スルノ前兆ニシテ我党ハ

内務大臣伯爵板垣退助殿

警視總監西山志澄

前途大ニ好望ノ地位ニアリ而シテ我輩ハ反對党ノ現状且ツ今
日迄ノ行動ニ鑑ミ大ニ攻撃スヘキ材料ヲ有シ居ルモ茲ニ述ヘス
他日大ニ訴フル所アルヘシ諸君ニシテ今日憲政党カ分離シタル
理由及他党ノ内情ヲ知ランコトセラレナバ明瞭ニ人民新聞ニ
掲載スル積リナルヲ以テ各地方ヨリ出京セラレタル諸君ハ該新紙
ニ依リ知ラレンコトヲ希望ス云々
星亨ハ曰ク凡ソ物ニ於テ不平ナルコト無クンハ動クコトモ無ク鳴
ルコトモナシ故ニ物ニヨリ不平ト云フコトハ必要ナリ我党ガ昨日ヲ
以テ解党シ新ニ憲政党ヲ組織ナシタルハ所謂機先ヲ制シタ
ルモノニシテ之レ明カナル事実ナリ事先ンスレハ人ヲ制スト今日
我党ハ頗ル機先ヲ制シ一大勝利ヲ博セリ反對党カ昨今ノ
如ク狼狽スルハ固ヨリ笑止千萬ニアラスヤ将来ニ於テモ我党
ハ機先ヲ制スルコトニ於テハ彼ノ進歩派モ及ハサルコト明カナリ
今日總務委員ニ我ニ選擧シタルコトニ鑑テハ僅カニ反對
党ニ對シテ勝利ヲ得ルト云フコトハ今ヨリ断言ス如何トナレハ

警視總監西山志澄

大隈總理大臣殿

必親展

乙秘第四六八號　十月八日

同志倶楽部総會

同志倶楽部ハ本日午后一時ヨリ本部ニ総會ヲ開キ昨日聯合委員會ニ於ケル決議ノ報告ヲナシタルニ異議ナリ之ヲ是認シ尚財政及外交ノ二問題ニ付テ協議セシニ清國今回ノ政變ニ就テハ我國ハ貿易通商並ニ外交上ニ重大ナル影響ヲ被ルヲ以テ此際宜シク進取政策ヲ取ルヘシトテ委員ヲ設ケ調査スルコトニ決シ直ニ撰定シタルニ財政調査委員ニハ円城寺清、山田東次、首藤文雄、川村驊、京田十衛、外交調査委員ニハ坂崎斌、渡辺勘十郎、奥野市次郎、高田早苗、山田猪太郎當撰シ仝四時三十分頃散會セリ

出席人名

川村驊	円城寺清	井上三郎	横田千之助
坂崎斌	村居鉄次郎	熊倉義廣	京十月吉
松本郡太郎	室泉重福	京田十衛	奥野市次郎

大隈總理大臣殿

必親展

渡辺勘十郎　首藤文雄　外二名

警視總監西山志澄

大隈內閣總理大臣殿

必親展

青年会

尾吉

某

青年会

ツキ相

交渉シ

事ニ決シ

スル事

ト言フ

乙秘第四五五號　十月四日

憲政党青年会相談會

昨日午後一時ヨリ京橋區新肴町貸席宗花亭ニ於テ憲政党青年会ガ其大会準備ノ為メ相談会ヲ開キタリ會スル者

後藤儀太郎　松村猪三郎　円城寺清　三浦亀吉

新井兔司　須佐嘉橘　青山某　横田某

ノ八名ニシテ同会ガ協議ノ要領ハ将ニ開カントスル全国青年会大会準備ニ関スル協議ヲナサンカ為ニシテ其準備費途ニツキ相談シタル結果各大臣次官警視總監局長ニ向テ手ヲ分チ交渉シ百円五十円三十円廿円ト階級ヲ付シ應分ノ出金ヲ請フ事ニ決シ直ニ着手スルコトヽシ晩クモ本月十日迄ニ其結果ヲ報告スル事ニ定メタリ猶其事務所ハ明日中ニ確定シ通知スル筈ナリト言フ

同四時一同退散セリ

必親展

警視總監西山志澄

大隈總理大臣殿

必親展

乙秘第四二四號　　九月廿日

帝國教育會常議員會状況

昨十九日午後七時ヨリ帝國教育會常議員會ヲ開ク其状況左ノ
山崎彦八清水直義等ハ曩ニ尾崎文相カ共和政治云々ノ演説
ヲ為シタル事ハ世論ノ囂々スル處ナルカ果シテ事實ナルヤ否
ヤ役員ニ於テ常議員會ヘ詳細ノ報告アリタシトノ質議ヲナ
シ役員ハ文相カ演説ニ對シテ文部省ヨリ秘書官等屢々來
會應答ノ事實ヲ擧ケ明細ナル報告ヲ為シタリ然ルニ山
崎彦八ハ共和政治云々演説ヲ為シタル事實アルニモ拘
ラズ本會ハ事實無根ノ旨新聞紙ニ掲載シタルハ役員
ノ失錯ニシテ本會ノ威信ヲ失墜シタルモノナリト述ヘ既ニ
役員不信任ノ決議案ヲ提出セントスル形勢アリシカ調
停ヲ試ミタル者アリタルト時已ニ十二時ヲ報スル場合ナル
ヲ以テ不信任ノ決議案ハ終ニ提出セラレスシテ曖昧ノ
間ニ散會シタレ氏尚ホ一週間内ニ常議員會ヲ開ク

管ナレバ其期ニ至リ不信任ノ決議案ヲ提出スルニ至ルヤモ知レズト云フ

乙秘第四一一號　九月十三日

懇話会員武内維忠ノ談話

貴族院ノ研究会ガ現政府ニ反對スルノ眼目トスル處ハ政府枢要ノ地ニ在ル者ニシテ何等ノ實驗モナク徒ラニ其地位ヲ保ツコトニ汲々タル者多ク何等為スヿアルナシ若シ此儘ニ經過スルニ於テハ國家ノ進運ヲ阻害スルノミナラス終ニハ國体ヲ傷クルニ至ルナキヲ保セス故ニ吾ニハ此際黙過スヘキノ時ニアラス進デ之レガ防禦ノ策ヲ講スルハ勿論或ハ研究会首唱トナリ各派ニ交渉シテ現政府ノ非政ヲ列擧シ上奏案ヲ呈出スルノ止ムヘカラサルニ至ラン

外務大臣伯爵大隈重信殿

必親展

内務大臣伯爵樺山資紀

内務省用

……本大臣ハ

……究ノ論爭

……モ人智未

……制限ヲ

……之ヲ放

……ル限リハ

……ヲ務メサ

……誘導シ

啓發スルコトヲ務メ人民ノ權利ハ出來得ル限リ之ヲ擴

張スルコトヲ謀ルヘシ國民ノ智識發達シ初メテ完全ナ

樺山内務大臣演説ノ大要

明治廿九年十月十三日

昨日松方首相ヨリ内閣方針ノ大要ハ朗讀セラレタルカ本大臣ハ尚ホ本省主管ノ件ニ付告クル所アラン

一言論集會出版ニ關スル法律ニ付テハ從來政党ノ論爭スル所ニシテ議會ニ扵テモ常ニ問題ト爲レリ抑モ人智未タ進マサルトキハ人民ノ權利行使ニ付テハ多少ノ制限ヲ加フルノ必要アリト雖モ人智進ミ經驗ヲ積ミ之ヲ放任スルモ危險ナキニ至ルトキハ公安ヲ害セサル限リハ成ルヘク人民ノ權利自由ハ之ヲ進暢スルコトヲ務メサル可ラス

政府ハ國民自達ノ主義ヲ採リ成ルヘク國民ヲ誘導啓發スルコトヲ務メ人民ノ權利ハ出來得ル限リ之ヲ擴張スルコトヲ謀ルヘシ國民ノ智識發達ニ初メテ完全ナ

外務大臣伯爵大隈重信殿

必親展

内務大臣伯爵樺山資紀

内務省用

ル政治ヲ行フヲ得ヘシ國民ノ智識ニシテ發達セサルトキハ當局者如何ニ盡瘁スルモ到底歐米諸國ト對峙スルヲ得サルヘシ而シテ交戰後ニハ外交財政最モ必要ナリト雖モ外交財政ハ國民ニ實力ナキトキハ十分ナル働キヲ爲スコト能ハス是レ今日ノ狀勢ニ於テ國民ノ發達ヲ誘導スルヲ最モ必要トスル所以ナリ茲ニ諸君ノ注意ヲ惹キタキハ警察ノ一事ナリ地方ニ在テ直接ニ人民ヲ治ムルニ當リテハ警察ハ人民權利ノ消長ニ關スルコト多シ將來人民カ權利ヲ行使シテ誤リナカラシメンニハ一ニ警察權執行ノ如何ニアリ諸君ノ職責實ニ重シト云フヘシ

一人才登用ニ付テハ現行官吏任用令ハ頗ル狹隘ニ失スルノ憾アリ元來此規則ノ主旨ハ任用ノ門戸ヲ廣クスルトキハ濫用ニ流ルヽノ弊ヲ防クニアリ乍併其門戸狹キトキハ後進少壯者ノ前途ヲ妨クルノ弊アルヲ以テ成ルヘク其門戸ヲ廣開シ有爲ノ人材ヲ登用スルコト最モ必要ナリト思フ去迚妄リニ明ケ放スヿハ又弊害アリ故ニ其方法ニ付テハ十分ナル調査ヲ遂ケタル上實行スル積リナリ

一繁文ヲ省キ事務ノ進捗ヲ謀ルハ行政ノ發達上最モ必要ノコトナリ地方事務ノ上ニ於テモ諸君ハ此意ヲ体シ事務ヲ簡易ニシ可成澁滯ナカラシメンコトヲ期セラレタシ

一政府ハ上來述ヘタル所ノ事項ニ付テハ十分ノ調査ヲ遂ケタル上實行セントスルヲ以テ特ニ委員ヲ設ケ著々其步ヲ進メントス

一地方制度ノコト特ニ諸君ノ注意ヲ望ムモノアリ夫レ一國ノ盛衰ハ一市一町村ノ如何ニ在リ市町村ノ行政其宜シキヲ得テ初テ國家ノ進歩ヲ期スヘキナリ然ルニ或地方ニ於テハ市町村吏員ノ選挙ニ競爭甚シクシテ有為ノ士ハ其職ニ就クヲ喜ハス党派軋轢ノ結果町村役場ハ實ニ政党事務所ノ観ヲ呈スルカ如シト聞ク是レ余カ痛心第一ノ事ナルモ町村吏員公選ハ法律ノ定ムル所ナレハ唯之レカ監督ノ任ニ當ル諸君ハ今後現制度ノ範圍内ニ於テ出來得ル限リ町村吏員其人ヲ得ルコトヲ勉メ以テ地方自治ノ發達ヲ謀ラレンコトヲ希望ス

一官吏ノ風紀ハ一般ニ社會ノ標準トナルモノナレハ最モ其行為ヲ慎マサルヘカラス然ルニ近來官吏ノ風紀大ニ弛ミ紀律ノ立タサルモノ多キカ如シ其弊ノ延ヒテ地方ニ及ホス影響少カラサルヘシ政府ハ其依テ起ル所ノ原因ヲ察シ之ヲ之ヲ矯正スルコトヲ勉ムヘシ故ニ諸君宜シク服務紀律ヲ励行シ賞罰ヲ明ニシ以テ官吏タルノ品格ヲ保チ國民ノ標準タルノ實効ヲ挙ケラルヘシ

一水害ノ情況ニ關シテハ恐レ多クモ
宸襟ヲ悩マセラレタレハ過日最モ惨状ヲ極メシ四縣ヲ巡回シ直チニ復命上奏ニ及ヒタリ内務省ニ於テモ水害善後策ニ付日夜孜々復旧工事ノヿモ畧ホ考案モ立チタレハ遠カラス之ヲ實行スル所アルヘシ
近年各地方天災荐リニ臻リ其惨状實ニ憫ムヘキモ地方人民一ニ國庫ノ補助ヲ仰カント欲シ漸々依頼心ヲ醸成セシハ又嘆スヘキナリ彼ノ實況陳述ヲ名トシ委員ヲ設ケ直ニ主務大臣ニ向ヒ運動ヲ試ムルハ地方ノ一弊習

タリ諸君ハ地方長官ノ職ニ在リ地方萬般ノ事務ハ必ズ一タビ諸君ノ手ヲ経由セサルモノハ本省ニテ妄リニ采納スヘキモノニ非ス諸君モ此意ヲ体シ益知事ノ職權ヲ明ニシ以テ威信ヲ立テサルヘカラス

一 地方ニ依頼心ヲ起サシメス自主獨立ノ精神ヲ養成スルハ地方自治制度ヲ完全スルノ根本タリ諸君宜シク地方ノ人心ヲ鼓舞シ才能ヲ登用シ殖産興業ノ實ヲ擧ケ以テ國家冨強ノ素ヲ造ラレンコトヲ切望ニ堪エサルナリ

警視総監西山志澄殿

（総）理大臣伯爵大隈重信

親展

ノ析
鳴散
トも
も周
柳花
男等
佐藤
しう
決し
タう
選ノ

乙秘第三三七號　八月六日

中澤彦吉候補ヲ辞ス（第三報）

昨日京橋銀行ニ中澤彦吉及同派ノ重ナルモノ等會合商議中ノ折柄岩谷松平入来リ今日ニ至リ中澤ノ起ツハ不都合ナリトテ怒鳴散ラセシヨリ中澤ハ大ニ恐怖シ候補ヲ辞スル旨申出タリ然レトモ中島派ニ於テハ是非トモ候補者タラシメント数回交渉セシモ固辞シテ動カス昨日公同會例會ノ後チ中澤中島両派ノ重ナルモノ柳花苑ノ別室ニ會シ善後策ニ付中島派ノ中村正直酒井泰河村武男等ハ中澤派ノ喜谷市郎右エ門中村治助田村藤兵衛、三枝興三郎佐藤作二、土田政次郎等ニ對シ先ツ左記第一ノ請求ヲ為セシモ容レラレス第二ノ請求ハ承諾スル所トナリ結局両派共随意投票ニ決シタリ然レトモ大勢ハ尚ホ中澤派ニ傾キ居レハ好シ表面候補者タラサルモ或ハ當選スヘキ歟彼レモ亦今日固ク辞スルト雖モ當選ノ暁ハ遂ニ承諾スルコトヽナルベシトモ云フ

第一請求

好シ表面候補者タラサルモ若シ當選ノ上ハ本人ヲシテ承諾セシムベシトノ責任ヲ諸君ニ於テ持セランタシ

第二 請求

一旦候補者タルベシト公言セラレタルヲ以テ吾々モ既ニ運動ニ着手セシ今日ト為リ今更之ヲ停止スル能ハス故ニ中澤君ヲシテ新聞其他ノ方法ニ依リ候補ヲ辞シタリ抔トノ廣告ヲ為サシメサルコト

小宮山寅之助
久米嘉兵衛
仙波多摩
村松慶龍
青木昭
片岡健吉
坂口源治
新井喜吾
田中賢道
横田千之助
藤崎周之
安藤亀太郎
弘瀬重正
浦岡正勝
下飯坂権三郎

中村百太郎
和泉清高
山添武治
鈴木友三郎
坂崎斌
浦岡精一
磯野清成
深山儀緒
小泉吉太郎
板倉中
小川為淳
上野継太郎
出居保郎
津田懋
富岡織之助

工藤直三郎
梶野敬三
時沢佐兵治
横井甲子太郎
後藤寛之助
山本騏龍
森山信一
堀長秀
西村裕
山崎林太郎
林喜一
島田保之助
森田圓太郎
中島藤太郎
浦上梧龍

伊藤林吉次
川口萬之助
山本佐兵衛
遠佐發
中村文珍
窪田寿太郎
横山駿
野田卯太郎
渡辺駿水
安藤久三郎
鈴木穂輔
松井将杜
山岡昇三
石井虎之助
依田佐長

新村寅三郎
中村弘兵衛
田原廉三
清水吉業
丸山嵯峨一郎
柳澤文三郎
阿部充家
上田久米太郎
星亨
山本幸彦
山田織之助
村上佐太郎
門脇重雄
宮城久兵衛
石田篠識

清水栄三
櫻井勉
岩崎新太郎
富森民治
二宮甚平
林長次郎
箕浦英吉
大久保弁太郎
田村順之助
山田義之助
酒井直六
大石庫
上田長四郎
藤澤藤太郎
大塚常次郎

松浦安次
望月重作
江副靖臣
早川利三郎
岩佐盛吉
櫻井徳太郎
藤澤方次郎
山本為彦
伊達文三
土橋実也
天野清範
堀田根之助
樋爪鉞太郎
花村三千之助
佐藤太平

本田清定
飯塚義太郎
蓮池凡児
江原三郎
新田国輔
山崎寿太郎
内藤栄範
早川権彌
遠井太三郎
林耕悦
清水従人
磯野太喜
草刈義八郎
大塚貞六
佐藤庫

塩田真造
柴林徳三
蜂須賀之實
君塚精三
天野羅也
鈴木文次郎
本城安太郎
樋澤元熊
山口宗脩
中村宗太郎
前橋道治
楢原三四郎
田代銀一
吉田長敬
伊藤傳太郎

利光鶴松
伊澤修治
八田四目
内藤魯一
玉川清三
重岡薫五郎
魚住逸治
松本君平
木村乾
小久保伊之熊
松尾太郎
藤原篤六
瀧口帰一
千田軍之助
中澤有年

緑川鉄三
花香蜜蔵
玉井権右ヱ門
揚行三
石谷董九郎
小手川豊爵
麦田宰三郎
黒瀬斉三郎
高野一歩
南波登発
齋藤安雄
鈴木倖左ヱ門
奥沢福太郎
新井啓一郎

出席人名

標瀬権十郎
山内一正
揚田繁馬
数津林傑
鯉沼九八郎
伊藤徳三
刈米品吉
竜野周一郎
野尻岩次郎
倉永喜久治
杉田定一
原田十衛
永江純一
秋山正作

岸田利一
土方房五郎
山嶋巌
青田繁明
竹越与三郎
荒川雅楽郎
五十野譲
青木正太郎
中野忠八
森秀次
改野耕三
松本啓作
影山秀樹
一円正實

小川幸吉
門田智
高橋安直
中村克昌
濱名信平
佐留久一郎
比留写郷之助
小田貫一
村田助松
根岸嵋太郎
横山又吉
傍士了
小倉幸助
国島博

石坂昌孝
鈴木庄吉
伊藤寸兵ヱ
平野才一
櫻井駿
村寛二郎
橋本直袍
宮部襄
西貞三郎
青木久七
閑亮
清水平四郎
井上隆治
有津仲次郎

中西　光三郎
岡崎　邦輔
金井　貢
村居　鉄次郎
金森　通倫
高須　賀穣
石井　安三郎
稲瀬　春次郎
坂野　三右衛門
小島　茅英
伊藤　才一
山田　助六
永井　嘉大郎
佐久間　元三郎
大石　萬秀

藤　金作
江間　俊一
石井　思徳
杉見　文平
石黒　遠一郎
西沢　治藏
小川　虎一
征矢野　半弥
井手　毛三
寺島　松兵工
石黒　采太郎
野崎　栄太郎
清水　康太郎
福田　志道
吉屋　平作

瀬戸　荒熊
川俣　篤二
伊藤　藏一
安原　傳
花保　智
粕谷　華三
今西　恒太郎
富永　隼太
山田　宇吉
信太　鉄太郎
世井　善次郎
小倉　喜平
土居　平左衛門
佐藤　鉄志
若村　忠之助

山口　熊野
宮下　一清
稲下　八郎左衛門
平野　鶴八郎
東条　良平
大沢　庄之助
若村　半左衛門
西村　淳藏
野村　庄之助
山本　友吉
松元　剛善
南　通雄
後藤　文一郎
須田　治右衛門
山内　毅一郎

西本　俊一郎
林　包明
木暮　武太夫
山下　重威
森　東一郎
井田　忠信
長谷部　兵吏
布施　喜七
小橋　栄太郎
樋田　理太郎
吉沢　重松
鷹巣　清次郎
入山　祐次郎
高留　勝太
加藤　脩作

宮杜孝一
駒林廣運
村野常右衛門
石井男
實繁三郎
持田直
山田潤太郎
恒松隆慶
日向角太郎
稲垣示
星入亘右衛門
大島鉄太郎
宮崎栄治
林副重
廣瀬武司

名村忠徳
千田徹
満留善助
杉喜一郎
西谷金作
山村梅四郎
関田可通
吉村億一
改野耕三
獲寄鉄五郎
田中善太郎
松田吉三郎
来土亮
西田斉平
津田正

海老原勇四
上野安太郎
加津直木翁
来井善次郎
大井徳兵工
河田繁穂
中澤楠弥太
有江三徳
松本正安
寺崎泰吉
堀尾茂助
脇坂行三
新井章吾
武部申策
多田作兵工

山崎美雄
磯田和蔵
西尾長蔵
園野記平治
小釜井権三郎
志波三九郎
益子董
高津雅雄
田中祐巳郎
小畑岩之郎
飯野喜巳郎
川村暉
室原重福
長谷川豊吉
並川龍三

勝卓郎
土居一郎
吉田善十郎
青田朝太郎
植木致一

乙秘第五一七號　　十月二十日

園田男ノ談話

或人昨日園田男ヲ訪フ男曰ク昨夕牧朴真来リテ本日二十日ニ開ク清國問題ノ研究会ニ出席ヲ促シタリ（場所ハ例ノ星ケ岡茶寮ナラント）近頃ハ或人ノ忠告ニ依リ沈默ヲ守リ居ルニ兎角種々ノ事ヲ持込マルヽニハ困ル今朝モ高島ガ来訪スルトテ通知シ来リタ未タ面識ナキ人ナルカ又何カノ運動ナラン大浦モ先頃一回尋ネ呉レタレ𪜈別段政談ニ渉ラスシテ別レタリ無論彼レモ現政府ニハ悪マルヽ一人ナラン自分モ懲戒免官ノ反動ニテ躍起運動ヲ為シツヽアリト巳ニ世上ニ批評シ居ル故断然沈默シ居ル然カ思ハレテハ實ニ心苦シ誠実國家ヲ思フテノ運動ガ躍起ナリト思ハレテハ残念ナルヲ以テ当分引込主義ヲ執ル覚悟ナリ然レ𪜈昨今聞ク處ニ依レハ旧革新党事務所ヲ公然司法大臣官舎ニ設ケタリト謂ヘリ果シテ事実ナラハ中々沈默ヲ守リ切レヌデハナキカ云々

秘

乙秘第四九二號　十月十四日

憲政党青年会ノ檄文

憲政党青年会ハ本日左記ノ如キ檄文ヲ配布シタリト云フ

檄シテ全國青年諸君ニ告グ

顧フニ我党志士夙ニ天下ノ憂ニ先ツテ憂ヘ雷霆ノ古椽大ノ筆ヲ以テ専恣横暴ノ論閥ト健闘シ悽愴惨憺タル逆境ニ處シ稜々タル苦節ヲ持スル茲ニ二十有余年始メテ政党内閣ノ偉観ヲ現出シ中外ヲシテ仰瞻セシメタルモノ吾人青年亦與ツテ力アリト謂ツ可シ

然リト雖モ守成ノ難キハ創業ノ難キヨリモ難シ我政党内閣ノ前途果シテ如何和気洋々タル春海ノ如クニシテ国民歓呼ノ裏ニ迎ヘシムル乎将タ亦怒濤暗憺タル怨聲ノ間ニ葬ラシムル乎憲政擁護ノ責懸ツテ輿論ノ原動力タル吾人青年袖手傍観徒ラニ此千載一遇ノ好機ヲ逸シ憲政ノ前途ヲシテ萬牛モ回ラス能ハザルノ悲境ニ沈淪セシメ我党志士多年熱血

ヲ遷尽シテ建設シタル偉業ヲ中道ニシテ挫敗セシムルカ如キハ吾人青年ノ痛恨措ク能ハザル以所也記セヨ此偉業ヲシテ有終ノ美ヲ濟サシメ憲政ノ実ヲ挙クルハ是レ天ノ吾人青年ニ下セル一大責任ナルヲ

嗚呼今ヤ邦家ノ事内外急ヲ告ケ洵ニ関心ニ堪ヘサルモノアリ於是乎吾人青年ハ大ニ天下俊秀ト会同シ此天賦ノ本領ニ向ツテ百尺竿頭一歩ヲ進メンヿヲ期ス破窓史ヲ諒ムノ十一月前劇ヲ按スルノ健児蓋ソ躍然トシテ来リ会シ大ニ天下ノ風雲ヲ叱咤シ刺下ノ問題ヲ解セサル半夜撥剣ルノ時瞰然袂ヲ蹶テ起テ敢テ人ニ後ルヽ勿レ

明治三十一年十月十二日　憲政党青年會

大会順序目録

第一　参集及途上

午前八時芝公園ニ参集

午前九時隊伍ヲ整ヘ第一号砲ヲ以テ公園ヲ発ス

仝公園御成門外憲政党本部門前ニ於テ進行ヲ止メ一同整列内閣各大臣憲政党本部楼上ニ出テ大隈伯板垣伯祝文朗讀青年会総代答辞

一同整列最敬禮ヲナシテ　天皇陛下萬歳ヲ三唱シ次キニ憲政党萬歳一唱

第二號砲ト共ニ再ヒ進行ヲ始メ銀座通ヲ通過シ上野公園式場ニ入ル

第二式場

第一一同式場ニ入リ着席ス

第二楽隊、奏楽、

第三開會ノ辞

第四決議案朗讀

第五祝文祝電朗讀

第六来賓祝辞

第七奏楽

第三餘興

第一奏楽
第二剣舞
第三撃剣
第四綱引
第五角力（飛入勝手）
第六豚追ヒ（豚ハ勝者ノ有トス）
第七酒肴ヲ呈ス
第八爆竹
會散

注意芝公園發集所ハ東京府勸工場附近ニシテ高札ヲ以テ示ス
上野公園式場ハ高札ヲ以テ之ヲ示ス
（大會ハ来ル廿三日）

警保局長小倉久

内務省用

閣總理大臣伯爵大隈重信殿

急

必親展

秘

當選報告　第六回

兵庫縣

第五区　一二五五　憲　元進　△平岡萬次郎

次点　四　仝　仝　河野岩吉

第七区　一七四四　仝　仝　△岡本松太郎

次点　一五八　仝　仝　名倉次

新潟縣

第三区　一三七八　憲　△高岡忠郷

次点　二　仝　元進　佐々木松坪

千葉縣

内閣総理大臣伯爵大隈重信殿

第四区　六三八　憲　元自　△鈴木儀左エ門
次点四〇三　仝　元進　太田茂

静岡縣
第三区　一二九〇　憲　元進　△廣住久道
次点二三　無　増田与之助

山形縣
第四区　一一三七　憲　元自　重野謙次郎
次点一二二　仝　元進　大泉理助

福井縣
第四区　八〇八　憲　元自　山口定省
次点六五三　仝　小畑岩次郎

岡山縣
第二区　八七五　憲　元進　△竹内正志
次点四八七　無　馬場清五郎

徳島縣
第一区　九一三　憲　元進　新開貢
次点五八六　仝　元自　石田真二

山口縣

第二区　四〇八　無　國重政亮
次点一五四　國　磯部孝一

富山縣

第二区　九〇六　憲　元進　△西田收三
次点　五　仝　長島武右エ門
第四区　一六四九　仝　元進　△大矢四郎兵衛
次点一四九九　仝　元自　上野安太郎

德島縣

第二区　一三三〇　無　△板東勘五郎
次点　二　小笠原鶴太郎

第三区　七一〇　憲　元進　武市彰一
次点四九〇　無　川真田市太郎
第四区　八五九　憲　元進　△橋本久太郎
次点　三五四　無　吉田次郎
第五区　三七七　憲　元進　阿部興人
次点　二二五　仝　元自　大久保弁太郎

愛媛縣

第四区　四九一　憲　鈴木重遠
次点二九一　仝　河村菊次郎
第六区　五六八　仝　△児島惟謙
次点　二三五　無　今西林三郎

大分縣

第一区 八六九 憲 元進 △箕浦勝人
次点 八 國 毛利莫

第二区 四七四 憲 元進 小栗貞雄
次点 二七〇 無 小手川豊次郎

佐賀縣

第二区 一四五八 憲 元自 松田正久
次点 一九 松尾寛三

熊本縣

第三区 人二 一五一〇 國 △佐伯誠一郎
一五〇九 仝 古荘嘉門
次点 一一四四 憲 元自 井上太郎七
一一四二 仝 仝 小山雄太郎

宮崎縣

第三区 三六八 憲 △小林乾一郎
次点 三 石川清

大阪府

第六区 一四八二 憲 △深尾龍三
次点 一一一二 仝 元自 横田虎彦

神奈川縣
第四区　一二〇二　憲　元自　△梶野敬三
　次点　一一三　仝　元進　水越良介
第三区　七四一　憲　元自　△德増源太郎
兵庫縣
第二区　一七六五　憲　石田貫之助
　次点　七六五　仝　元進　上村文三郎
第三区　九一四　仝　元自　植木致一
　次点　八五一　仝　仝　園野喜平次
第四区　一八六二　仝　元進　鞍谷清慎

　次点　五〇一　仝　元自　宮崎新蔵
長崎縣
第六区　二六　國　△多田通
　次点　二一　憲　日高光太郎
新潟縣
第四区　一〇三四　憲　佐藤宗弥
　次点　一五二　仝　元進　大竹貫一
群馬縣
第一区　一七六五　無　△久米民之助

次点 一四 憲 関口安太郎
第三区 一〇八二 憲 元進 中島祐八
次点 八二 仝 元自 高津仲次郎
第四区 一一〇六 仝 仝 塩谷五十足
次点 七六九 仝 仝 小暮武太夫
第五区 五二二 無 齋藤壽雄
次点 四五一 憲 高橋庄之助

警保局長小倉久

内務省用

内閣總理大臣伯爵大隈重信殿

急　必親展

警保局長

秘

衆議院議員當選見込報告　第壹回

一本報所載ノ憲○ハ新タニ憲政党ニ入リタルモノ

一憲○元○自○ハ元自由党憲○元○進○ハ元進歩党ノ共ニ憲政党トナリシモノ

一國○ハ國民協會無○ハ無所屬ナリ以下倣之

内閣総理大臣伯爵大隈重信殿

親展

内務省用

新潟縣

第一區		憲元進	市島謙吉
第二區	二人	仝仝	佐藤伊助
第三區		仝	高岡忠郷
第四區			
第五區	二人	憲元進	三輪潤太郎
		仝元自	高橋九郎
第六區		仝元進	牧口義方
第七區	二人	仝仝	丸山嵯峨一郎
		仝仝	岡田竜松

第八區　二人　仝　仝　室孝次郎
　　　　　　仝　元自　大瀧傳十郎
第九區　　　仝　元進　磯部八五郎

岩手縣

第一區　憲　元進　大隈英麿
第二區　仝　仝　小田爲綱
第三區　仝　仝　名須川良平
第四區　仝　仝　猪狩八郎
第五區　仝　仝　鈴木文三郎

青森縣

第一區 二人 憲 元進 奈須川光寳
第二區 仝 仝 德差藤兵衛
第三區 仝 仝 工藤行幹
仝 仝 菊池九郎

和歌山縣

第一區 二人 憲 元進 濱口吉右エ門
無 関直彦
第二區 憲 元自 千田軍之助
仝 塩路彦右エ門
第三區 二人 仝 元自 山口熊野

大阪府

第一區	無	大三輪長兵衛
第二區	憲 元自	伊藤徳三
第三區	無	前川槙造
第四區 二人	憲 元自	秋岡義一
	無	中野治兵衛
第五區	憲 元自	中野廣太郎
第六區	仝	滌尾竜三
第七區	國	出水弥太郎
第八區	憲	北田豊三郎
第九區	仝	中辰之助

栃木縣

第二區　二人　憲仝

田村順之助

新井章吾

秘

第六回（当選見込報告）

長野縣

第一區　憲　元自　飯島正治

第二區　無　山田莊左エ門

第五區　仝　小山久之助

第七區　憲　元自　渡辺猶人

鳥取縣

第一區　憲　元自　石谷董九郎

第三區　仝　仝　門脇重雄

大分縣

第二區　憲　元進　小栗貞雄
第三區　國　朝倉親為
第五區　公　元田肇
第六區　憲　元進　江島久米雄

熊本縣

第二區　無　松尾又雄
第三區二人　國　佐伯誠一郎
　　　　　　公　古荘嘉門

滋賀縣

第一區　憲　元進　望月長夫

第二區　仝　元自　片岡久一郎

第三區 二人
仝　西川重威
仝　元進　藤野辰次郎

第四區　仝　元自　脇坂行三

警保局長小倉久

内務省用

内閣總理大臣伯爵大隈重信殿

急必親展

秘

衆議院議員当選報告第一回

一 本報所載ノ憲○ハ新タニ憲政党ニ入リタルモノ

一 憲○元自○ハ元自由党憲○元進○ハ元進歩党ノ共ニ憲政党トナリシモノ

一 国○ハ国民協会無ハ無所属ナリ以下倣之

一 △ハ再選

内閣総理大臣伯爵大隈重信殿

兵庫縣

第一區

四八四 憲 元自 △本城安次郎

次点二五四 憲 元進 横田孝史

第六區　憲 元自　岩瀨武司

福岡縣

第二區 二人　憲 元自　多田作兵衛

憲 元自　藤金作

德島縣

第三區　憲 元進　武市彰一

廣島縣

第八區　無　井上角五郎

當選報告　第二回

神奈川縣

第一區　三五七　憲　元進　△島田三郎
次点　一八六　仝　元自　鈴木稲之助

東京府

第一區　二九三　無　安川繁成
次点　一　仝　楠田英世
第二區　一三九　憲　元進　△星　松三郎
次点　一一三　無　中鉢美明
第五區　二九〇　憲　元自　△利光鶴松
次点　三八　無　立田彰信

秘

第六區	二九四	憲		△高梨哲四郎
次点	一一二	無		小関忠太郎
第七區	四三九	憲	元進	△松田秀雄
第八區	二九四	仝		△田口卯吉
次点	三	仝	元自	江間俊一
第九區	二五〇	仝	元進	△鳩山和夫
第四區	七九五	仝		横山富次郎
次点	二	仝	元進	濱口吉右エ門

第五回（当選見込報告）

神奈川縣
第一區　憲　元進　島田三郎
第二區　憲　元自　永島亀代司

新潟縣
第一區　憲　元自　齋藤和平太

岐阜縣
第六區　憲　元自　前島丈之助

山形縣

秘

富山縣

第一區　二人　憲　元進　佐藤里治
　　　　　　　憲　元自　戸狩権之助
第二區　　　　憲　　　　小倉信近
第三區　二人　憲　元進　秋保親兼
　　　　　　　憲　元自　阿部孫左エ門
第三區　　　　憲　元進　稲垣示
第四區　　　　憲　元進　大矢四郎兵エ

島根縣

第一區　　　　憲　元進　星野甚左エ門
第二區　　　　無　　　　並河理二郎
第三區　　　　無　　　　江角千代次郎
第六區　　　　無　　　　原田赴城

岡山縣

第五区　　　　憲　元進　東良三郎
第七区　　　　無　　　　野間五造
第一区　二人　憲　元進　坂本金弥
　　　　　　　憲　元自　石黒涵一郎
第六区　　　　憲　元自　井手毛三

廣島縣

第六区　憲　元進　山蔭靜夫
第三区　憲　元進　金尾稜嚴

山口縣
第一区　二人　無　古谷新作
　　　　　　　国　河北勘七

德島縣
第五区　憲　元進　阿部興人

愛媛縣
第四区　憲　鈴木重遠

福岡縣
第七区　無　高瀬九三次
第三区　憲　添田壽一

熊本縣
第四区　国　内田雄藏
第六区　国　小嶋義明

鹿児島縣
第四区　憲　和泉邦彦
第六区　憲　佐藤通代
第七区　憲　林元俊

東京府

第六区　憲　高梨哲四郎

第十二区　憲改進　高木正年

秘

当選報告　第十二回

長野縣

第四区

二　二三〇九　憲　降籏元太郎

人　二二三六　仝　元自　上條謹一郎

次点　二九　憲　横沢本衛

岩手縣

第二区

七八　憲　元進　△小田為綱

次点　五七　憲　元自　宮杜孝一

高知縣

第二区二　一五八九　憲　元自　△土居平左エ门
人　一五七五　仝　仝　西原清東

秘

第四回（当選見込報告）

福岡縣

第一區　憲　平岡浩太郎

第四區　仝　元自　野田卯太郎

第五區　仝　佐々木正蔵

第六區　仝　元自　永江純一

第八區　仝　仝　征矢野半弥

大分縣

第一區　憲　元進　箕浦勝人

第四區　仝　廣瀬貞文

佐賀縣

第一區 二人 憲 元進 武富時敏
仝 仝 江藤新作
第二區 仝 元自 松田正久
第三區 仝 元進 永田佐次郎

熊本縣

第五區 憲 元自 松岡長康

宮崎縣

第一區 憲 津野常
第二區 仝 横山通英

第三區　仝　小林乾一郎

鹿兒島縣

第一區　憲　有馬要介

第二區　仝　鮫島相政

第三區　仝　長谷場純孝

第五區　仝　有村連

東京府

第二區　無　中鉢美明

兵庫縣

第六區　憲　元進　西村眞太郎

廣島縣

第一區　二人　憲　元自　串本康三

憲　宮原幸三郎

第四區　国　和田彦次郎

石川縣

第二區　無　中田弥平

岐阜縣

第一區　国　大野亀三郎

第三區　憲　元自　佐久間国三郎

香川縣　第四區　憲　元自　堀家虎造

新潟縣　第四區　憲　元進　佐藤宗弥

熊本縣　第一區　二人　国　佐々友房

国　内藤正義

京都府

第一區	無	雨森菊太郎
第二區	無	中村栄助
第四區	憲 元進	喜多川孝経
第六區	憲 元進	神鞭知常

群馬縣

第二區	無	金井貢
第四區	憲 元自	塩谷五十豆
第五區	無	齋藤壽雄

德島縣

第一區　憲　元進　新閑　貢
第四區　憲　元進　橋本久太郎

石川縣
第三區　二人　憲　元進　淺野順平
無　金田平五郎

福島縣
第一區　憲　元進　菅野善右エ門

廣島縣
第九區　憲　元自　山内吉郎兵エ

兵庫縣 第二區 憲 石田貫之助

岡山縣 第二區 憲 元進 竹内正志

第三區 憲 元進 犬養毅

兵庫縣 第八區 二人 憲 元自 堀豊彦

憲 元進 高川定次郎

第九區 二人 憲 元自 西村淳蔵

憲 元進 冨田仙助

三重縣

第二區　憲　木村誓太郎

第三區　憲　元進　和波久十郎

第四區　憲　元進　大石正巳

千葉縣

第三區　憲　元進　大須賀庸之助

第四區　憲　元自　鈴木儀左エ門

第七區　憲　元進　星野助左エ門

茨城縣

第一區　二人　憲　元自　関信之介

第一區 人二 憲 元白 五十野穣
第四區 憲 初見八郎
第五區 憲 元進 木村格之輔
第六區 憲 元進 岡野寛

埼玉縣

第四區 二人 憲 元白 齋藤安雄
憲 元進 堀越寛介
第五區 憲 元白 持田直

栃木縣

第一區 無 星亨

愛知縣

第三區　憲　元自　堀尾茂助

第七區　無　長坂重孝

第十區　憲　元進　加藤六藏

第十一區　憲　元自　後藤文一郎

靜岡縣

第一區　無　福島勝太郎

石川縣

第四區　憲　元進　橋元勗

愛知縣

第五區　憲　元旧　森東一郎

第六區　憲　西川宇吉郎

第八區　国　早川龍介

第九區　憲　元旧　浦野鎗平

岐阜縣

第五區　憲　元旧　石井鼎

宮城縣

第五區　憲　元進　首藤陸三

第二區　憲　佐藤清

6

第四區　無　千葉胤昌

福井縣

第三區　憲 元進　三田村甚三郎

第四區　憲 元自　山口定有

秋田縣

第一區　無　大久保鉄作

第二區　憲 元進　畠山雄三

第三區　憲 元進　須藤善一郎

第四區 二人　憲 元進　武石敬治

憲 元進　伊藤直純

廣島縣
第七區　憲　元進　花井卓蔵

兵庫縣
第三區　憲　元自　植木致一
第四區　憲　元進　鞍谷清愼
第十區　憲　元自　高津雅雄

福島縣
第五區　憲　愛澤寧堅

千葉縣

警視總監西山志澄

大隈内閣總理大臣殿

親展

乙秘第四七四號　十月十一日

松方伯ト品川子及ヒ村山龍平

三四日前松方伯ハ品川子ヲ九段ノ邸ニ訪ヒ政党内閣ヲ極力攻撃
シ是非トモ現政府ヲ繼シ未來ノ内閣ニハ山縣侯爵ヲ擁シ總理タ
ラシメサルベカラス侯ニシテ總理タルコトヲ肯セラルヽニ於テ
ハ予亦其ノ末班ヲ汚スコトヲ辭セサルベシ閣下亦侯ニ說ク所ア
レ云々ト言ハレシ由伯亦此ノ程村山龍平ニ對シ至急ニ上京スベ
キ樣電報ヲ發セラレシ由村上ハ大坂朝日東京朝日両新聞ノ持主
ニシテ伯ノ恩顧ノモノ村山上京ノ上ハ此ノ両新聞ヲ以テ政府絶
對的反對ノ論說ヲ記載セシムル筈ナリト云フ

乙秘第四〇一号　九月八日

長谷場純孝ノ談話

現内閣ハ色々他ニ気兼子斟酌ヲナシ我々ヨリ出シタル改革案モ充分採用セサル有様ニテ何分英断ノ勇気ナク至テ歯痒キ感アリ既ニ自ラ政党内閣トカ第二ノ維新トカ云フ以上ハ目覚マシキ英断ヲ以テ改革ヲ行ヒ天下ノ耳目ヲ聳動スル程ノ処置アランヿヲ望ムナリ尤モ伊藤カ大隈板垣ニ内閣ヲ渡ス時ニ当リ小役人ノ更迭ハ注意ヲ望ム云々ノ語アリシヲ以テ此等ノヿニ懸念シ改革断行ニ躊躇スルカハ知ラサレド元来立憲政体ハ其根源総テ下民ノ輿望ニ始マリ　皇上ノ御裁可ヲ以テ一国ノ法令トナリ政治トナルモノナレハ一般党員ノ希望ノ如キハ之ヲ排斥スルヿナク内閣ハ猶豫セス躊躇セス可成的早ク之ヲ容ルヽヿヲ切望ス云々

樺山ハ此程郷里ヨリ帰京以来深ク鋒鋩ヲ収ムル有様ニテ敢テ政論ヲナサス高島ハ之ニ反シ大ニ心中企画スル所アルモノヽ如ク仝志及配下ノモノヽ出入ハ旧ニ依リ絶エルヿナシ然レ𪜈今日ニ於テ躍起運動

セントスル模様アルヲ見ス唯々天下ノ成敗ヲ観望スト云フノ姿ナリ
又此程予ノ邸ニ仝志輩ノ集会セシヲ聞キ謀反デモ企テル様ニ評判スルモノアレド右ハ時事問題ニ関シ二三ノ議論アリテ意見ヲ戦ハシタルニ過キス云々

内閣書記官

大隈總理大臣閣下

秘

親展

秘

第十二回議會衆議院議決

第三十五條　選擧人ハ投票所ニ於テ投票用紙ニ自ラ被選擧人ノ氏名ヲ記載シテ投函スヘシ

投票用紙ニハ選擧人ノ氏名ヲ記載スルコトヲ得ス

文字ヲ書スルコト能ハサル者ハ投票スルコトヲ得ス

第八條　左ノ資格ヲ具備スル者ハ選擧權ヲ有[redacted]ス

一 帝國臣民ノ男子ニシテ年齢滿二十年以上ノ者

二 選舉人名簿調製ノ期日前滿一年以上其ノ府縣内ニ住居シ仍引續キ住居スル者

三 選舉人名簿調製ノ期日前滿一年以上地租五圓以上又ハ滿二年以上所得税若ハ營業税三圓以上又ハ所得税營業税ヲ通シテ三圓以上ヲ納メ仍引續キ納ムル者

第十條 帝國臣民ノ男子ニシテ年齢滿二十五年以上ノ者ハ被選舉權ヲ有ス

第十六條 左ニ掲クル外ノ官吏ハ衆議院議員ト相兼ヌルコトヲ得ス

一 國務大臣

二 法制局長官

三 各省次官

四 各省勅任參事官

	選挙區	投票	選挙
内務省提案	一 府縣（郡部ヲ通シテ） 二 市	一 單記 二 匿名	一 成年ニ達シタル帝國臣民 二 選挙人名簿調製期日前満一年以上其選挙區内ニ住所ヲ有シ仍引續キ有スル者
法制局意見	賛 賛	賛 賛	賛 賛
第十二回議會衆議院議決	一 府縣（郡市） 二 市（人口八万以上）	一 連記 二 匿名 三 自記	一 満二十年以上帝國臣民 二 選挙人名簿調製期日前満一年以上其府縣内ニ住居シ仍引續キ住居スル者

人資格	被選人資格	議員ト相兼ヌルコトヲ得ル官吏
三 選挙人名簿調製期日前 (1) 満一年以上地租五円以上 (2) 又ハ満二年以上所得税若ハ営業税三円以上 (3) 又ハ所得税営業税ヲ通シテ三円以上 (4) 又ハ地租所得税営業税ヲ通シテ五円以上 (5) 又ハ地租所得税若クハ営業税ヲ通シテ五円以上 ヲ納メ仍引続キ納ムル者	満二十五年以上ノ帝国臣民	別ニ勅令ヲ以テ定ム
賛	賛	賛
三 選挙人名簿調製期日前 (1) 満一年以上地租五円以上 (2) 又ハ満二年以上所得税若ハ営業税三円以上 (3) 又ハ所得税営業税ヲ通シテ三円以上 ヲ納メ仍引続キ納ムル者	満二十五年以上ノ帝国臣民	左ニ掲クル外官吏 一 国務大臣 二 法制局長官 三 各省次官 四 各省勅任参事官

備考　議員一人ト人口トノ割合

	郡	市	北海道	島嶼
内務省提案	人口十万毎ニ一人	人口五万以下ノ市ハ一人 仝五万以上ノ市ハ五万迄ニ一人 以上五万毎ニ一人ヲ増ス	各選挙区一人	人口ニ拘ハラス一人
法制局修正	二十万マテハ二人 以上十五万迄毎ニ一人ヲ増ス	五万マテハ一人 以上八万毎ニ一人ヲ増ス		
第十二回議会衆議院議決	十万毎ニ一人	八万毎ニ一人		

衆議院議員定員表

府縣	内務省提案		法制局修正	十二回議會衆議院議決	
東京	東京市	二十九人	仝 十八人	東京市	十七人
	郡部（伊豆七島ヲ除ク）	六人	仝 五人	其ノ他	六人
京都	京都市	七人	仝 五人	京都市	四人
	郡部	六人	仝 五人	其ノ他	六人
大阪	大阪市	十六人	仝 十人	大阪市	九人
	堺市	二人	仝 二人	其ノ他	八人
	郡部	七人	仝 六人		
神奈川	横濱市	四人	仝 三人	横濱市	二人
	郡部	七人	仝 六人	其ノ他	七人
兵庫	神戸市	四人	仝 三人	神戸市	二人
	姫路市	一人	仝 一人	其ノ他	十五人
	郡部	十四人	仝 十二人		
長崎	長崎市	二人	仝 二人		九人
	郡部	七人	仝 六人		
	島部	一人	仝 一人		
新潟	新潟市	二人	仝 二人		十七人
	郡部	十六人	仝 十四人		
埼玉	郡部	十一人	仝 九人		十二人

群馬	前橋市	一人	仝	一人		八人
	郡部	七人	仝	六人		
千葉	郡部	十二人	仝	十人		十三人
茨城	水戸市	一人	仝	一人		十一人
	郡部	十一人	仝	九人		
栃木	宇都宮市	一人	仝	一人		八人
	郡部	七人	仝	六人		
奈良	奈良市	一人	仝	一人		五人
	郡部	五人	仝	五人		
三重	津市	一人	仝	一人		十人
	四日市市	一人	仝	一人		
	郡部	九人	仝	七人		
愛知	名古屋市	五人	仝	四人	名古屋市	三人
	郡部	十三人	仝	十一人	其ノ他	十四人
静岡	静岡市	一人	仝	一人		十二人
	郡部	十一人	仝	九人		
山梨	甲府市	一人	仝	一人		五人
	郡部	四人	仝	四人		
滋賀	大津市	一人	仝	一人		七人
	郡部	六人	仝	六人		
岐阜	岐阜市	一人	仝	一人		十人
	郡部	九人	仝	七人		
長野	長野市	一人	仝	一人		十二人
	郡部	十二人	仝	九人		
宮城	仙臺市	二人	仝	二人		八人
	郡部	七人	仝	六人		
福島	郡部	十人	仝	八人		十一人
岩手	盛岡市	一人	仝	一人		七人
	郡部	六人	仝	六人		
青森	弘前市	一人	仝	一人		六人
	青森市	一人	仝	一人		
	郡部	五人	仝	五人		
山形	山形市	一人	仝	一人		八人
	米澤市	一人	仝	一人		
	郡部	七人	仝	六人		
秋田	秋田市	一人	仝	一人		八人
	郡部	七人	仝	六人		
福井	福井市	一人	仝	一人		六人
	郡部	五人	仝	五人		
石川	金澤市	二人	仝	二人	金澤市	一人
	郡部	六人	仝	六人	其ノ他	七人

冨山	冨山市 二人 高岡市 一人 郡部 六人	仝 二人 仝 一人 仝 六人	八人
島取	島取市 一人 郡部 三人	仝 一人 仝 四人	四人
島根	松江市 一人 郡部 六人 隱岐 一人	仝 一人 仝 五人 仝 一人	七人
岡山	岡山市 二人 郡部 十人	仝 二人 仝 八人	十一人
廣島	廣島市 三人 尾道市 一人 郡部 十二人	仝 二人 仝 一人 仝 十人	廣島市 一人 其ノ他 十三人
山口	赤間関市 一人 郡部 九人	仝 一人 仝 七人	十人
和歌山	和歌山市 二人 郡部 六人	仝 二人 仝 五人	七人
徳島	徳島市 二人 郡部 六人	仝 二人 仝 五人	七人
香川	高松市 一人 郡部 六人	仝 一人 仝 五人	七人
愛媛	松山市 一人 郡部 九人	仝 一人 仝 七人	十人
高知	高知市 一人 郡部 五人	仝 一人 仝 五人	六人
福岡	福岡市 二人 久留米市 一人 郡部 十二人	仝 二人 仝 一人 仝 十一人	十四人
大分	郡部 八人	仝 七人	八人
佐賀	佐賀市 一人 郡部 五人	仝 一人 仝 五人	六人
熊本	熊本市 二人 郡部 十人	仝 二人 仝 八人	十一人
宮崎	郡部 四人	仝 四人	五人
鹿兒島	鹿兒島市 二人 郡部 八人 大島郡 一人	仝 二人 仝 七人 仝 一人	十一人
北海道	札幌區 一人 函館區 一人 小樽支廳 豊[illegible]町村 一人	仝 一人 仝 一人 仝 一人	○ ○ ○
總計	四百八十五人	四百十二人	四百四十人

警視總監西山志澄

大隈總理大臣閣下

要急 必親展

数	八	二	五	二	二	八

東京府各選挙區投票豫測（但市部）

明治三十五年八月十日　警視廳

區別	候補者氏名	候補者得点豫測数	棄権豫測数	何人ニ投票セシヤ不明ノ数	投票総数
一區	安川繁成	二九三	二五八	五	二九八
二區	星松三郎	一一七	一八二	九	三四二
	中鉢美明	一一九			
	岸小三郎	九七			
三區	山田喜之助	三二六	二八八	○	六五五
	中澤彦吉	三二五			
	岩谷松平	四			
四區	横山富次郎	七六五	一○○○	三七	八○二
五區	利光鶴松	四八二	二三八	○	五三二
六區	高梨哲四郎	二九八	二三七	○	四○八
	小関兵太郎	一○八			

要急　必親展

七區	松田秀雄	四三九	三〇二	〇	四三九
八區	田口弥吉	二九〇	二六三	〇	二九九
九區	鳩山和夫	二五〇	一九五	〇	二五〇

（備考）第二區ハ中澤派ノ有志拘引事件ノタメ氷索ニ混亂ヲ極メ一說ニ中澤ノ得票二十票程多数ナリト云ヘリ

第五區 利光ノ得票以外ニ五十票ノ投票アリ是ハ太田実、立田新信ニ屬シ居ル見込

第二區 候補者二人ノ得票以外ニ尚二票ノ投票アリ一票ハ安井治兵エ、一票ハ無効ノ見込

第八區 田口ノ得票外ニ九票アリ是ハ江間俊一ニ投票セシモノト見込ム

東京府各選挙区投票予測（但郡部）

明治三十五年八月十日　警視庁

区画	候補者氏名	候補者得票予測数	棄権予測数	何人ニ投票セシヤ不明ノ数	投票総数
十区	堀田連太郎	八九一	一三七	四一	九三二
十一区	浅香克孝	一、三九二	四四〇	二二	一、四一四
十二区	高木正年	三三九	一一七	五	六二三
	平林九兵衛	二七九			
十三区	青木正太郎	一、一六八	五〇四	三二八	一、二六四
	村野常右衛門	一、二三二			

内閣總理大臣殿

必親展

警視總監西山志澄

乙秘第四八八號　十月十四日

北陸倶樂部ノ幹事會

去十二日午前十時ヨリ憲政會本部ニ於テ北陸倶樂部ノ幹事会ヲ開キ倶樂部ノ位置ハ適當ノ家屋アルマデ之ヲ定メズ常議員ノ選定方法ハ公平ヲ保ツ為メ一縣十名ツヽトシ本日中ニ之ヲ選定シ明十五日本部ニ於テ常議員会ヲ開キ今後倶樂部ガ執ルベキ方針其他ニ就テ協議スルコトニ決シ午後一時頃散会セリ

出席者

遠藤秀景　金岡又左衛門

波多野傳三郎

乙秘第四八九號　十月十四日

尾崎三良邸ノ會合

去十日左記ノ人々麻布區六本木町三十一番地尾崎三良方ヘ會合シ午後十一時頃退散ス其協議ノ事項ハ鐵道國有問題ニ就テノ評議ナリシトコフ

出席者

金子堅太郎　黒田長成　清浦奎吾　千家尊福

竹内綱　井上角五郎　佐々田懋　小野金六

石田英吉　渋澤喜作

警視總監西山志澄

大隈内閣總理大臣殿

必親展

乙秘四八二號

加能倶楽部員會合

十月十二日

昨十二日午後一時ヨリ新肴町開花亭ニ加能倶楽部員遠藤秀景松本郡太郎外三名来リ加能倶楽部ノ運動方法ニ付協議スル筈ナリシモ来会者少数ナリシ為メ別ニ纏リタル協議ヲ為サゞリシカ結局加能倶楽部ヲ組織シ居ル以上ハ時事問題ニ付テハ常ニ会合協議ヲナシ一定ノ方針ヲ固定スルノ必要アルニ不拘幹事ガ甚ダ冷淡ニシテ絶テ之レ等ノ通知ヲ発セズ不都合ナレハ以後此團体ハ財政整理ヲ以テ唯一ノ目的トシ吾々ハ飽迄モ一致ノ運動ヲナシ苟モ他ノ刺戟ニヨリ漫リニ方針ヲ更メス従テ又時事問題ニ付テハ最モ公平ヲ重スルコトスベシ云々ト云フニ決シ電話ニテ朝倉外茂鉄ヲ呼ヒ暫時右ノ趣旨ヲ談シ午後六時頃一同退散セリ

内閣總理大臣殿

乙秘第四八五號　十月十三日

國民協會院外者ノ運動

昨日午前酒井戎次郎桑谷武一郎平岡光彰等　赤坂区南坂牧朴真ノ邸ニ会シ衆議員ノ選定ニ着手玉石混淆諾否未定ノモノ百数十人ヲ挙ケ本日其ノ向フ所ヲ部署シ各々其ノ承諾ヲ求ムル筈ナリ

牧ハ右相談ヲ了シタル後午後三時発ノ汽車ニテ鎌倉ニ赴キ夫ヨリ片瀬ニアル子供ノ病ヲ看ニ今日午後帰京力ヲ酒井等ニ添ヘ奔走スル筈ナリ

乙秘第四八〇號　十月十三日

京華日報ノ記事ニ付テ

本日刊行京華日報雜報萬朝報ノ論説ヲ不問ニ付シタル内務省ノ弁解ナルモノニ付其ノ出所ヲ探クルニ右ハ一昨朝日社主筆瀧本誠一カ孰レヨリカ齎シ来リタルモノニテ十一行罫紙四枚許ノモノナリ同人ハ之レハ内務省ノ役人ニハ見セラレヌ筆蹟ナ故ニ何人カ漏シタカト言フコトカ知レルカラ云々ト申シ居レリ

然ルニ高雜誌ノ語次僕ハ今朝恩地(轍)ヲ訪ヒタルモ申ク(遠)カツタ京橋カラ四谷迄ハドノ位ノ里程カアロウ乎杯申居リタリ予ノ察スル所ニテハ瀧本ト恩地トハ一方ナラザル昵懇ノ間柄ナレハ出所ハ或ラス恩地ナルベシ只恩地ヨリノ出所ナルコトヲ晦マサン為メ故ラニ内務省云々ト言ハレシモノナルベシト

京華日報ハ本願寺ノ機関トモ申スベキ関係ヲ有シ今回ノ事件ヲ充分弁護スベキコトヲ約シ日々三千枚ヅヽ買上ルコトニナレリト

言ノ

乙秘第四八一號

東北倶楽部集会

十月十三日

昨十二日正午十二時ヨリ東北倶樂部ニ左記ノ者集会去ル十日開花亭ニ於テ各團体聯合委員会ノ決議報告及ニ大会ニ関スル打合ヲ為シ且ツ東北倶樂部員ハ多数集会スル時期ニ至リ当事務所ニテハ狭隘ヲ感スルニ依リ来ル十五日芝[illegible]入町三十番地料理店鳥長方ヘ移轉スルコトニ決シ午後五時散会セリ

出席人名

重野謙次郎　山田猪太郎　河野広中
芳賀宇之吉　佐伯悌蔵　小田為綱
氏家清　助川良介　大狩権之助
佐治幸平　長井高明　佐藤昌蔵
沼田宇源太　門馬尚経　赤羽友春
首藤陸三　瀬下秀文　衣川英雄

熊谷義廣
大隈英麿
安瀬敬三
佐藤曾治
登坂某

大久保鎮也
安達松四良
京谷藤次
大和正文

武石敬治
安藤保五郎
慶澤寧堅
三澤綱龍

乙秘第四八三號　十月十三日

星亨ノ談

京華日報記者萩原某ト星ト同郷ニシテ兼テ舊交アリ一昨ニ日
星ヲ訪ヒタル際星ハ
十一月一日ニ開カルヘキ憲政党大会ニハ関東倶楽部地租増徴
ト尾崎ノ共和演説事件處分トヲ提出スル積リナリ萬一大
会ニシテ之ヲ容ルヽニ於テ大會即チ憲政党ノ党議トシテ政府ニ
要請シテ之ヲ實行セシメ尚シ不幸ニモ大会ノ容ルヽ所トナラ
サハ関東倶楽部ノ衆ヲ率ヒテ断然タル進退ヲ決スル
覚悟ナリト
語リタル由然レ氏星ニ注意シテ地租云ヽ共和演説ト新聞ニ
記載セシメス財政問題云ヽ尾崎失言問題云ヽト掲クル
ヿニ注意シタリト云フ

大隈總理大臣殿

必親展

警視總監西山志澄

乙秘第四六四號　十月五日

憲政党各團体聯合委員会

本日午后二時ヨリ其本部ニ各團体聯合委員会ヲ開キ門脇重雄ヲ坐長ニ推シ先キニ同志俱楽部カ行政改革ニ付テ決議シタル三ケ條ヲ議題トシテ提出シタルニ多少異論アリシモ結局多数ヲ以テ之ヲ可決シ尚ホ細目ニ至リテハ調査ヲ要スル点アリトテ即チ調査委員トシテ門脇重雄、稲垣示、田村順之助、山田東次、渡辺勘十郎ノ五名ヲ挙ケ同四時散会セリ

出席人名

千田軍之助　田村順之助　稲垣　示　鈴木万次郎
門脇　重雄　佐藤　里治　本城安次郎　渡辺勘十郎
朝倉外茂鉄　村松　愛蔵　天野　確郎　小畑岩次郎
奥野市次郎　山田　東次　岩崎　一島　円城寺　清
藻寄鉄五郎　森　　肇　川村　曄

大隈總理大臣殿

必親展

大隈内閣總理大臣殿

親展

警視總監西山志澄

乙秘第四六三號　十月五日

國民協会院外者ノ奔走（第三）

國民協会院外者ハ兼テ火曜会ヲ剌劃スルノ目的ヲ以テ一團ヲ組織セントノ計画アリシカ（乙秘第四四七号、乙秘第四五八号参照）牧朴眞カ一昨日倶瀬ヨリ帰京シタルヲ幸ニ發起人等ハ同氏ニ就キ意見ヲ叩キタルニ牧ハ之ニ答ヘテ言ヘル様

僕ハ郷里ノ計画ニハ双手ヲ擧ケテ同意スルモノナルモ如何セン曽孫ハ親戚ノ看病ノ為メ出テ、京ニアリ旦又非政府党ノ集会ヲ催スニハ少クモ四五百ノ人ヲ集メサルヘカラサルニ時期兎角切迫其準備ヲ為スニ由ナク満足ノ結果ヲ見ル能ハサルヘシ殊ニ憲政党大会モ二旬ノ中ニアリ此ノ大会ハ多少波瀾ヲ会場ニ見ルヘシト要ニ存ル矣先ニ吾々カ一大集会ヲ催キ彼レニ戒心ヲ與フルハ策ノ得タルモノアラサレハ暫ク大会ヲ延期シ未来ニ提携スヘキ人物ノミ十数名ヲ集メ準備会トシテ開会スル方然ルヘシ云々

発起人モ此ノ説ニ首肯シ来ル八日大光鞍ニ於テ忘年会ヲ開クコトニ
内決シタリト言フ（日時場所ハ都合ニヨリ変更スルコトアルヤモ知
レズ）右ニ出席ヲ約セラレタル人々ハ
松井慶吉　大岡力　牧朴真　二宮熊次郎
清水文次郎　新井毫　酒井雄次郎　徳富猪一郎
桑谷豊一郎　小松三省
小松ハ拒絶ノ答ナリシニ頼テ桑谷ヨリ発起人タルコトヲ相談シ
置キタリトテ（蓋シ）ニ加入ヲ許可スルコト、ナリシナリ
昨日出席ヲ交渉シタル左ノ三名ノモノ（未タ諾否ヲ知ラス）モ多分出
席ヲ承知スルコトナルヘシ
寺原長輝　朝比奈知泉　福地源一郎

大隈總理大臣殿

必親展

警視總監西山志澄

別紙ノ通リ相聞ヘ候ニ付御……

……般ノ意向……申候也

明治三十一年八月二日

警視總監西山志澄

大隈總理大臣殿

……和歌山……可致此段……

乙秘第三二八號

當管内及ヒ各府縣ニ於ケル目下政府ニ對スル一般ノ意向
別紙ノ通リ相聞ヘ候ニ付御參考ノ爲メ此段及内申候也

明治三十一年八月二日

警視總監 西山志澄

大隈總理大臣殿

追テ靜岡、宮城、[illegible]、和歌山ノ四縣ニ係ル分ハ追テ内報可致此段
申副候也

大隈總理大臣殿

火急

現政府ニ對スル一般ノ意向

北海道廳	一般望ヲ矚ス
東京府	一部ノ実業家ヲ除クノ外目下一般ニ同情ヲ表スルモノヽ如シ
京都府	實業家ノ或ル一部ヲ除クノ外一般ニ同情ヲ表ス
大坂府	實業家ノ重ナル者ハ財政方針ノ如何ニ依テ向背スヘク其他ハ一般ニ反對ノ模様ナシ
神奈川縣	一般ニ同情ヲ表ス
兵庫縣	仝上
長崎縣	仝上
新潟縣	仝上
埼玉縣	某四五國民派ヲ除クノ外ハ一般ニ同情ヲ表ス
群馬縣	概シテ同情ヲ表ス
千葉縣	一般ニ同情ヲ表スルモ閣員ノ分裂ヲ危ムモノヽ如シ
茨城縣	一部ハ非難シ居ルモ多數ハ同情ヲ表ス
栃木縣	一般ニ同情ヲ表ス
奈良縣	仝上

三重縣　一般ニ同情ヲ表ス
愛知縣　概ネ悪シカラス
靜岡縣　〇
山梨縣　一般ニ同情ヲ表ス
滋賀縣　仝　上
岐阜縣　國民協會ニ屬スル一部ハ反對ナルモ其他ノ多數ハ同情ヲ表セリ
長野縣　一般ニ同情ヲ表ス
宮城縣　〇
福島縣　一般ニ同情ヲ表ス只東北ヨリ一大臣モ出サヽルヲ稍々不滿トスルノ色アルノミ
岩手縣　一般ニ同情ヲ表ス
青森縣　仝　上
山形縣　一般ニ全情ヲ表ス唯タ此現内閣ノ永続スルヤ否ニ就テハ安心ヲ措カサルモノヽ如シ
秋田縣　國民協會ト気脈ヲ通スル中正派反對意ヲ表シ居ルモ他ハ大体ニ於テ同情ヲ表ス
福井縣　一般ノ感情悪シカラス今后施政ノ如何ヲ究観セントスルモノヽ如シ
石川縣　〇

富山縣	一般ニ同情ヲ表ス
鳥取縣	仝上
島根縣	國民協會ノ一部ヲ除クノ外ハ一般ニ同情ヲ表ス而シテ現内閣カ將來輿望ニ副フノ施政ヲ採ルヤ否ヤニ注目シ且ツ伊藤侯ニ對シ後図ノアルナキヤヲ疑ヒ居ルモノヽ如シ
岡山縣	概ネ同情ヲ表ス
廣島縣	一般ニ同情ヲ表ス
山口縣	目下敢テ反對ノ模様ナキモ前内閣ノ回復ヲ希望セルモノヽ如シ政府若シ地價修正ヲ行ハントセバ絶對的ニ反對スルナラン
和歌山縣	○
徳島縣	一般ニ反對ノ模様ナシ
香川縣	一般ニ同情ヲ表ス
愛媛縣	概ネ同情ヲ表ス
高知縣	一般ニ内閣ヲ歡迎スルモ官吏ノ登用其當ヲ得ズトテ不平ヲ鳴ラスモノアリ
福岡縣	三分ハ反對ニシテ七分ハ同情ヲ表ス
大分縣	國民派ノ幾部モ漸ク憲政党ニ傾キ随テ一般ニ政府ニ心ヲ寄スルノ風潮ナリ
熊本縣	國権党ノ幾部及ヒ中立派等ノ者ハ同情ヲ表スルモ國権党ニ属スル多数ノ人民ハ反對ヲ表セり
佐賀縣	一般大ニ同情ヲ表ス

宮崎縣　一般ノ気受宜シ

鹿児島縣　一般ニ同情ヲ表ス

大隈總理大臣閣下

必親展

警視總監西山志澄

乙秘第三六四號　八月廿九日

高島将軍ノ談話

将軍ハ現内閣ヲ批評シテ曰ク

現内閣ノ組織ハ迅速咄嗟ノ間ニ成リ其ノ外面ハ如何ニモ立派ニ其ノ手際モ亦巧妙ナルガ如シト雖モ其ノ實力欠如スル所アリテ上下一般ノ信任ヲ得ルヿ能ハズ大隈ト板垣ハ維新ノ大業ニ関シ功勞アリ政治上ニモ實驗アルモノナレバ　陛下ノ御信任モ少シハアルベク国務大臣ノ資格アルモノト假リニ許スコトアリトスルモ其ノ他ノ大臣ニ就テハ断シテ其ノ資格アルモノト謂フベカラズ殊ニ自由進歩両黨ノ合同ハ相互ノ野心ヨリ成リタルモノニテ自由党ハ進歩黨ヲ利用シ進歩党ハ自由黨ヲ器械ニ使ヒ以テ其ノ志望ヲ達セント欲シ合同シタルモノニテ所謂苟合的ノ團結ト言ハザルベカラズ現ニ余ハ懇意ナル某ニ命ジテ窃カニ其ノ内情ヲ探ラシムルニ憲政黨ト云フハ唯外面ノ名目ニテ其ノ實自進両党相対シテ屹立シ各自銘々其ノ一身一家ノ榮達利益ヲ謀リツヽアル有様ナレバ早晩分裂ノ時アルベク而シテ分裂ノ時コ

大隈總理大臣殿

親展

ソ真ニ乗スベキノ好時機ナルベケレバ今日ハ先ヅ鋒鋩ヲ収メテ鋭気ヲ養ヒ徐ロニ時勢ヲ傍観シテ仙人的ノ生活ヲナシ時機ヲ得テ奮然ト起ツモノ是レゾ達観ノ士ト云フベシ然レ共余ハ時機ヲ得テ奮起シ現内閣ヲ乗取ラントスルガ如キ野心アルモノニアラズ若シモ斯ル野心アルモノト誤認サレテハ甚ダ迷惑ナリ

ト故ニ用意ノ一言ヲ加ヘタリ夫レヨリ談ハ選挙取締ニ及ビ勅令ハ素ヨリ必要ナルモ如何ニ賄賂ノ弊害ヲ防ガバトテ他ニ手段方策モアルベキニ余リニ厳峻ニ過ギ為メニ違反者ヲ出シタルコト實ニ数百千ノ多キニ及ビ却テ神聖ナル帝国議會ニ汚点ヲ印スルニ至リシハ真ニ痛心スル次第ナリ彼ノ京橋事件ノ如キ山田喜之助ノ悪法素ヨリ論スルニ足ラザルモ其ノ悪法ヲ為サシムルニ至リタルハ詰リ自進両黨対峙ノ結果ナリト言ハザルベカラズ

乙秘第三六六號　八月廿日

布哇償金ト伊東男爵

伊東男爵意気軒昂容ニ語リテ曰ク

布哇償金ハ実ニ国家ノ栄辱ニ関ス余ハ元来蛮觸ノ争ヲ好マス然レモ布哇償金問題ノ如キハ之ヲ黙過セント欲スルモ得ヘカラス余ハ同志ヲ貴族院ニ糾合シ大ニ政府ニ質ス所アラントス余ノ意見ノ如キハ載セテ東京日々新聞ニアリ就テ之ヲ見ルヘシト云々

大隈総理大臣殿

必親展

警視總監西山志澄

乙秘第四二五號　　九月二十日

東北會會合

東北会ハ本日午后三時ヨリ麹町区内幸町植木屋ニ集会シ来ル二十四日仙台市ニ於テ開会スル評議員会ニ提出スル議案ニ付協議ヲナシタル末左ノ五ケ條ノ決議ヲナシ仝六時頃散会シタリト云フ

一地租増徴ハ為サヾルヿ
一此際外資ヲ輸入シ諸事業ヲ興起スルヿ
一文官任用令ヲ廢スルヿ
一大改革ヲ断行シ人員ヲ淘汰スルヿ
一東北会ハ飽迄一致ノ運動ヲナスヿ

以上

大隈總理大臣殿

必親展

警視總監西山志澄

第三部 陸海軍 逓信

乙秘第四一六號　九月十六日

研究会ノ集会（乙秘第四〇五號参照）一

豫報ノ如ク本日午前九時ヨリ研究会事務所ニ於テ審査部会ヲ開キ本月十日選挙シタル審査部ノ分科委員ヲ確定シ夫レヨリ審査部長ヲ各科ニ一名ヲ互選シ左ノ如ク決定シタル後チ午后三時散会セリ

但シ本会ニ於ケル集会ノ定日ハ金曜当日審査部委員会ヲ開キ翌土曜日ハ総会ヲ開クノ会則ナルモ明日ニ於ケル総会ハ延期スル筈ナリト云フ

第一部　内閣　外務

部長　岡部長職

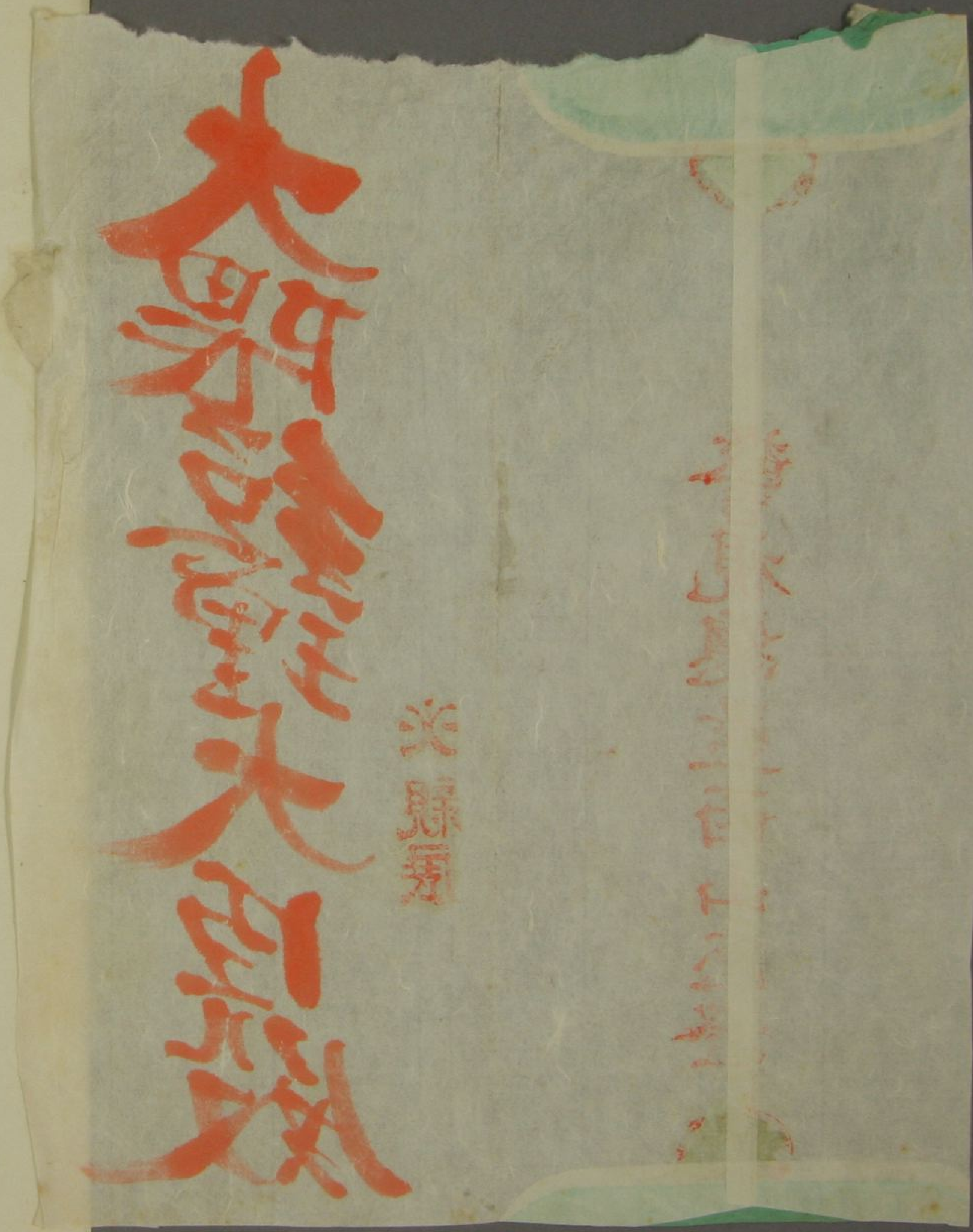
委員　黒田長成　入江為守　山井兼文　大河内正質

第二部　大蔵

部長　正親町実正

委員　牧野忠篤　青木信光　吉川重吉

第三部　陸海軍　逓信



部長　堀田正養

委員　松平直平　安藤直行　久留島通簡

第四部　内務　文部

部長　清浦奎吾

委員　松平康民　稲垣太祥　堤功長

第五部　農商務

部長　鳥居忠文

委員　一柳末徳　黒田和志　金子堅太郎

第六部　司法

部長　三好退蔵

委員　丹羽長保　永井尚敏　大久保忠順

乙秘第四一七號　九月十六日

新聞記者ノ会合

本日午後四時ヨリ紅葉館ニ柵瀬軍之佐、坂埼斌、佐藤孫治、阿部充家、齋藤武次郎、西川浅五郎、渡邊勘十郎、財部元次郎、弓削田精一、末永純一郎、岩佐善太郎、繁野珠城、外十四名会合シ柵瀬先ヅ発議シテ曰ク今日我々ガ茲ニ会合シタルハ刻下ノ形勢上同志記者ノ決合ヲ必要ト認ムルニ因レリ就テハ記者同志倶楽部ヲ組織ヲ望ムト夫レヨリ種々議論ノ末決局記者同志倶楽部ヲ組織スルニ定マリ左ノ決議ヲ為シ幹事ニ柵瀬、繁野、円城寺(清)ノ三名ヲ選定シ終テ酒宴ヲ開キ午后八時散会セリ

(決議事項)

一　本倶楽部ハ同志記者ヲ以テ成立ス

一　本倶楽部同志ハ毎月一回集会スルモノトス
　　但シ緊急ノ事件アル時ハ其限ニアラズ

一　本倶楽部ニ幹事三名ヲ置キ一切ノ事務ヲ擔当ス

乙秘第四一〇號　九月十三日

東北倶樂部集會

昨日午後三時東北議員倶樂部ニ會合アリ同會カ來ル廿五日仙臺市ニ開ク大會ニ提出スル議案ノ草稿ハ一縣ヨリ一名ノ委員ヲ選任スルコトヲ協議シ宮城縣ヨリハ佐藤琢治、福島縣ヨリハ鈴木萬次郎秋田縣ヨリハ山田猪太郎山形縣ヨリハ重野謙次郎岩手縣ヨリハ大隈英麿ニ委托スルコトニ決シ（青森縣ヨリ出席者ナキヲ以テ其委員ハ未定）引續キ過般關東倶樂部ヨリ交渉アリタル問題ニ移リテ協議ヲ尽シ結局關東倶樂部ノ決議ハ破壞的ニシテ本倶樂部ノ自重的方針ニ一致スヘクモアラサレハ該交渉ニハ同意セザルコトヽシ回答ハ關東倶樂部ノ感觸ヲ害セサル樣鈴木萬次郎ニ一任スルコトニ決シ午後六時頃退散セリ

出席者

安瀬敬藏　河野廣中　大隈英麿　山田猪太郎

佐藤琢治　佐藤里治　首藤陸三　柵瀬軍之佐

沼田宇源太
重野謙次郎
白石義郎
匹田要助

菊池九郎
鈴木萬次郎
白井遠平
外六名

白田眉吾
門馬尚經
工藤寛造

小倉信近
佐藤昌蔵
阿部鶴之助

大隈總理大臣殿

必親展

警視總監西山志澄

進改革ノ同志者会合シタルヲ世上ニ於テ種々中傷ヲナシテ憲政

党カ分離スル如ク云ヒ居ルモ本部ニ於テハ當時ノ形勢上会合ナ

乙秘第四二三號　九月十九日

憲政党ニ関スル件

憲政党中ニ於テ終始一貫他ノ中傷ヲ排斥シテ現政府ノ運命ヲ長カラシメントシテ頻リニ他派ノ不平者ヲ抑制ナスヿニ奔走スル者ハ九州東北ハ動スヘカラサルヿニ確定シ居ルカ独リ関東派中ノ旧自由派ノミハ大ニ不平ヲ抱キテ窃カニ分離ナサントノ計畧ヲ旋ラシアルガ為メニ本部総務委員ニモ調和方ニ尽力ナスト雖トモ星ノ勢力隠然教唆スルノ形跡アルヲ以テ大ニ苦心シツヽアリ然ルニ過日紅葉館ノ関東倶楽部会ノ如キ星ハ近縣ノ同主義者ヲ呼寄セテ列席セシメ暗ニ己レノ勢力ヲ示サントノ計画ニアリタルガ遂ニ目的ヲ達スルヿ能ハサルヨリ不満ヲ抱キ近頃ニ至ツテハ同志者ヲ集メ大会ノ当日種々難問ヲ提出シ大ニ当日ノ議場ヲ蹂躙ナサントノ野心アリ然ルニ過日旧本格倶楽部ニ旧改進改革ノ同志者会合シタルヲ世上ニ於テ種々中傷ヲナシテ憲政党カ分離スル如ク云ヒ居ルモ本部ニ於テハ当時ノ形勢上会合ヲ

シタルハ穏カナラサル言ヲ以テ島田三郎等ニ向テ問答セタル處偶然ノ会合ニシテ敢テ意味アルニアラサルモ関東派ニ於テノ意向是ノ為メニ動サルヽ如キアリテハ不愉快ナリトシ夫等ノ策ヲ講スル為メニアリタル旨申来リタリト 昨日楠本正隆ハ九州同志会ノ席上ニ於テ談話シタリト云フ

乙秘第四二〇號　九月十八日

島田派ノ真相

島田三郎ハ近来尾崎行雄ト頗ブル感情ヲ悪クシ暗ニ近衛公ヲ擁シテ貴族院ニ尾崎問題ヲ起サシメントシツヽアリテ之ニ加フルニ大東板垣ノ二人ヲ放逐セントノ野心アルモノヽ如シ其理由トシテハ宅地其他増税ヲ為スニ行政ノ整理セサルニ何ノ望アリテ賛成スルヲ得ルヤ若シ改革ニシテ充分ナル刷新ヲ為ス得ザルハ閣臣ノ不能ナルニ依ル之レ其交迭ヲ促ス以所ナリト云フニ在リ然シテ大東ニハ中村弥六ヲ勧メテ横田ヲ処分スル事能ハサルハ貴下ノ不能ナリ宜シク辞職スベシトノ筆法ニテ已ニ勧告ヲナシタリト云フ又板垣伯ニ對スル運動トシテハ大隈伯ニ向ヒ警視廳廃止ハ吾々ノ宿論ナリ宜シク廃止スベシト迫リ暗ニ板垣伯ヲ排斥シツヽアリ殊ニ渡辺勘十郎ハ一昨日本部ナル仝志倶楽部員トシテ仝一ノ運動ヲ為スベシト申シ込ミタルニ我ハ我ノ運動ヲ為ストテ之ヲ拒絶シ更ニ四五日中ニ旧改進革新大手ノ三派ヲ集メテ総会ヲ開キ大ニ協議スル処アルベシト云フ

西山警視總監

大隈總理大臣殿

親展

ラバ貴官等ハ何ニ由テ天下ニ對スルヤ當ニ貴官等一身ノミナラズ
延テ司直ノ威信ニ關スルニ非ズヤ出来得ベクンバ今夜中ニ放免セ

乙秘第三四八号　　八月十日

府下第三區候補者中沢派ノ集會及其談話ノ大略

八月九日京橋区新肴町開花亭ニ

中村正直　小久保文助　酒井恭　山本為五郎　山口憲

今井稲四郎　由良濵太郎　桐園吉之助　池上重兵エ　福井治郎右エ門

小林良才　齊藤某　外十二三名

来會ス標花苑ノ饗應事件ニ係ル毎日新聞ノ記事ハ勅令ニ違反セルモノナレバ告発スルコトニ決シ尚伊藤勘七外数名検事局ニ拘引セラレシ件ニ付協議ノ上午后九時中村正直ハ同件ニ付検事局ニ赴キタリ中村ハ同十時半頃歸亭シ下ノ如ク一同ニ報告シタリ

検事ニ談シタル要領ハ我々カ推選状ヲ配付セシ所為カ勅令違反ナリト言フハ何ニヨリテ然ルカ今日ハ実ニ一刻千金ノ時ニシテ勝敗ノ別ル丶処タリ然ルヲ其運動者ノ重ナル者ヲ拘引シ后日無罪トナラバ貴官等ハ何ニ由テ天下ニ対スルヤ啻ニ貴官等一身ノミナラズ延テ司直ノ威信ニ関スルニ非ズヤ出来得ベクンバ今夜中ニ放免セ

ラレタシ決シテ逃ゲ匿ルヽ者ニアラズ検事曰ク被告人ハ既ニ他ニ移シ今如何トモスル能ハズ若其所置ニシテ失當ナラバ甘ジテ責ヲ受ケンノミト記ニ要領ヲ得ズ引取リタリ之クニモ奇怪ト言ハズレバ世ニ奇怪ナルモノアランヤ藩閥政府デスラ如斯暴虐ノ行アラザリシ警察ガ選擧ニ干渉セシコハアルモ検事ガ直接ニ干渉スルハ實ニ今回ヲ以テ初メトス最早世ノ中ハ混濁セリ吾人ノ生命財産ハ何ニ倚リテ保ツヲ得ンヤ憲政黨ノ如キモ其言行相反シ如此人權ヲ輕ンズルニ至リテハ極力破壊セザルベカラズ又彼ノ山田ノ如キ前選擧ニ於テモアラユル陰険手段ヲ行ヒ区内ヲ騒擾セシメタリ今回又大ニ平和ヲ破リタリ今后如何ナル行為アルモ知レズ選擧終レバ同人ヲ推擧セシモノヽ排斥運動ニ着手シ我区ノ平和ヲ維持スルニ努ムベシ是私怨ニアラズ特ニ奇怪ナルハ新聞紙ガ号外ヲ發シタル一事ナリ云々

ト述ベタルニ一座激昂シ飽迄運動勝ヲ制セザルベカラズト唱ヘ居リタリ

乙秘第三九〇號　九月四日

東北同盟會員會合

昨三日午後五時頃ヨリ紅葉館ニ憲政党東北同盟會員拾四名會合シ藤沢幾之輔會頭トナリテ憲政党組織成リタル今日政党内閣モ成立シタルニ内閣ノ施政悠々不断ノ嫌アリ既ニ民心モ稍々倦怠スルノ傾向アルヲ以テ憂國憂党ノ志アル者ハ奮テ我党ノ為メ之レヲ輔助スルハ実ニ今日ノ急務ニアリ又一方ニ於テハ種々ナル中傷離間ナサントスルノ策ヲ施シツヽアルモノアリ此際東北ハ融和シテ党ノ為メニ尽サヽル可カラス之レヲ以テ東北倶楽部ヲ組織シ互ニ協同一致ノ運動ヲナサントノ目的ニテ茲ニ同志集マリ其準備ヲナサントノ次第ナルガ其ノ方法東北地方撰出ノ代議士並ニ五名ノ委員ヲ推撰シテ上京セシメ議會開會中ニ際スル対議會策ヲ講スルヿ其他憲政党ノ鞏固ヲ謀ル為メニ凡テ委員ニ於テ其間ノ運動ヲナスヿニ決議セシ云々

山下千代雄之ニ賛シテ曰ク憲政党ヲ組織スルニ付テハ実ニ我々ハ伊勢勘ニ會合シ種々策ヲ講シタルヿアリ東北ハ憲政党ノ為メニハ曽一

二奔走ナシ漸ク今日ノ如キ大勢力ヲ見ルヲ得タルガ今ヤ中傷離間ノ為メニ分離スル如キニ至リテハ最モ遺憾トスル處ナルヲ以テ此際ハ党ノ為メ内閣ノ為メ献策ス可キハ飽迄之レヲナシテ鞏固ヲ謀ルノ必要ト認ムルノミナラズ東北ハ憲政党ノ為メニハ初メノ経歴ニ於テモ尽サヾル可カラズ故ニ東北ノ一致ヲ謀ルニハ九州ノ如ク倶楽部ヲ設ケルノ最モ必要ト認ム尚今後ノコハ倶楽部ヲ設立シタル上ニテナス可シト云ヒ夫レヨリ種々憲政党ノ行為ヲ非難スル者アリタルガ山下、藤沢、菅原ニ於テ説明ヲナシ結局倶楽部ヲ創立スルニ就キテ幹事ヲ内馬尚経菅原傳ノ両名ニ委任スルコトニ事務所ハ一時内幸町植木屋ニ設ケルコトニ決定シテ酒宴ヲ開キ仝八時三十分頃散會シタリ其出席人名左ノ

内馬尚経、童野謹次郎、柵瀬軍之佐、鈴木万次郎、大和西夫

佐藤琢治、斎藤銭之輔、菅原傳、阿部寛之助、河野廣中

山下千代雄、佐藤里治、平井某、野辺某

隈内閣總理大臣殿

必親展

警視總監西山志澄

乙秘

本部

党

カ

ツ

ハ

藤

如

前議

綾

武

議

シメン

精神

現内閣

消税売

府下ノ

賣セ京

業者

案ハ

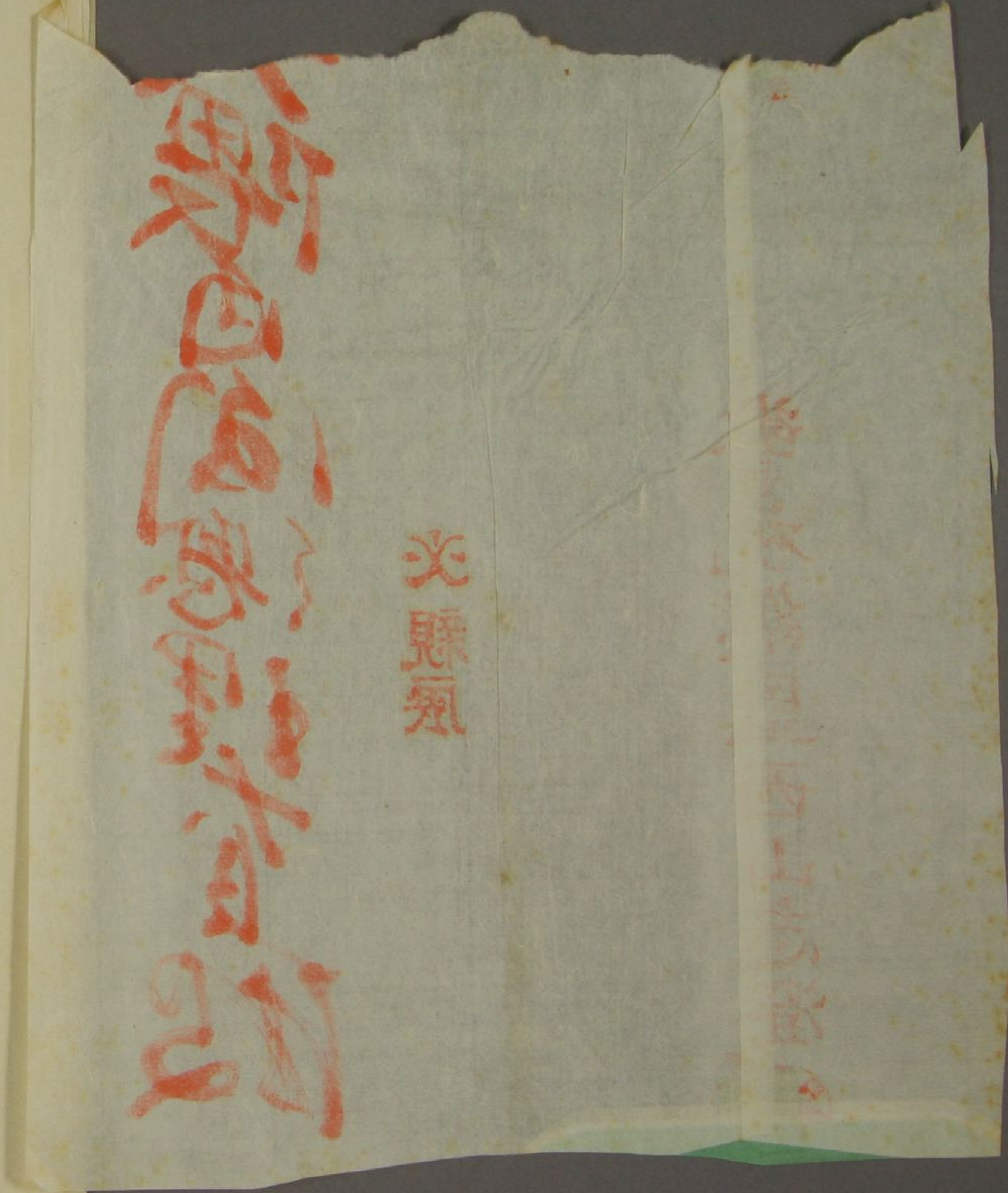
價修正

乙秘第五二二號　十月廿三日

政友倶樂部ノ會合

本日午前十時ヨリ京橋開花亭ニ山口弾正、加治壽衛吉、綾部竹之助、渡邉小太郎、小平鐐、瀧澤助三郎、山田某、武藤宍三郎、外二名来集シ政談演説會開會ノ件ニ付協議セリ其協議ノ要領ハ

當倶樂部ハ不偏不党独立ノモノタルコトヲ廣ク世人ニ知ラシメンカ為メ在京代議士及前代議士ヲ招待シ大ニ当倶樂部精神ヲ訴フルノ手段トシテ演説會ヲ開クベシ其演題ニ就テハ現内閣ハ唯タ互ニ私情ニ駆ラレ汲々タリ依テ之カ改良ヲ促シ并テ酒税売藥税ヲ増徴スルハ甚タ不都合ナリ殊ニ賣藥税ニ至テハ府下ノ如キ尤程痛痒ヲ感スルモノナレト雖モ寒村僻地ニ於テハ賣藥ノ供給ニ依ルモノ多シ若シ強テ之ヲ増徴スルニ於テハ啻ニ営業者ノ困難ナルノミナラス細民ヲ苦シムル一方ナラス尚ホ地價修正案ハ前議會ニ於テ敗レタルモ吾々ハ其ノ修正ノ必要ヲ認ム又地價修正



シタリトテ決シテ細民ニ影響スルモノニアラス又現内閣ノ外交政策ニ就テハ甚タ緩慢ナルノミナラス対清問題ニ関シ今後ノ形勢各國カ分割スル如キ暁ニ至ラハ益々如何ナル禍害ヲ被ルヤ知ルヘカラス今ニ於テ之カ防護ノ策ヲ講セサルハ其失政タルヲ免ル能ハス依テ此等ノ事項ヲ問題トシ現内閣ヲ攻撃スヘシト言フニアリテ結局之ニ決シ且ツ日時場所等ハ来ル二十六日午后更ニ仝所ニ會合取定スルコトニシ

散會セリ

乙秘第五二一號　十月廿三日

全國青年大會

本日午前十一時三十分上野公園内竹ノ臺ニ開ク出席者無慮千名場ノ中央ニ壇ヲ設ケ楠目玄ハ起テ宣言書ヲ朗讀シ（乙秘第五一九號參照）「請フ眼ヲ放テ」以下ヲ朗讀セス）次テ長谷川逸刀高橋秀臣三輪嘉一清山金太郎ハ宣言書ト大同小異ナル祝文ヲ朗讀シ松村猪三郎ハ各地方ヨリノ祝電及ヒ寄贈品ノ披露ヲ爲シ并ニ明日午前七時ヨリ神田錦輝館ニ於テ全國青年代表者ノ委員會ヲ開キ午后一時ヨリ政談演說ヲ爲シ并テ懇親會ヲ催ス趣ヲ報告シ次テ中外通（マ）信社員某ノ祝辭アリ終テ原十目吉　天皇陛下ノ萬歲ヲ三唱シ次テ憲政党萬歲ヲ一唱シテ式ヲ終リ餘興ニ移リ苐一爆竹次ニ豚二頭ヲ二回ニ場内ニ放チ會員ヲシテ逐廻ハサシメ捕獲シタルモノニ與ヘ其他擊劍相撲続テ綱引アリ終テ冷酒ヲ會員ニ饗セリ其間時々音樂ヲ奏シ午后二時無事一同散會セリ

乙秘第四九〇號　十月十四日

高島将軍ヲ訪フ

昨日高島将軍ヲ訪ヒタルニ宗像政先ツアリ偶々内務省ヨリ某地方官ニ轉シタル人亦来ル四人団欒時事ヲ談シ談横田檢事總長懲戒問題ニ及フ

某曰ク　横田懲戒ノ事ハ書面ヲ却下セラレタ　イヤ却下ニハナラヌト種々説アレトモ却下セラレタルカ事實ナリ併カシ上奏書ヲ一ニハ如何ナル事情ノアリシカハ知ラサレトモ只懲戒ニ附セラレンコトヲノミ奏請シ免職云々ノ文字ナシト謂ハ横田ハ懲戒スルニ足ラズトノ御上ノ思召ニテ却下セラレシヤ但シハ又其ノ趣旨ノ明瞭ヲ欠クトノ理由ヲ以テ却下セラレタルモノニヤ其ノ邊ハ明了ナラスト雖トモ兎ニ角却下セラレタル丈ケハ事實ナリ

将軍曰ク　現内閣ノ信任ニ失ヒタルコト一ニシテ足ラス殊ニ横田懲戒問題ニ付書面却下セラレタルコト事實ナリトセハ閣臣ガ闕下ニ伏シ職ヲ辞スルカ當然ノ匡適ナルベシ閣臣カ鐵面皮ニモ事茲ニ

出テス醜態知ラサルモノハ爲ネシテ椅子ニ齧リ離レサルカ如キ
コトアレハ其ノ時ハ之ヲ帝國議會ニ訴ヘ其不都合ヲ責メ以テ速ニ
内閣ノ交迭ヲ促スベシ
予ハ内閣ノ交迭ノ數々ナルヲ以テ國家ニ不利ナリトスルモナリ故ニ現
内閣ヲシテセメテモ第十三帝國議會ヲ經過セシメタシト切望ス
ト雖一裘葛サヘ換ユル能ハスシテ交迭セサルヲ得サルニ至リシ
コト形勢ノ然ラシムル所止ムヲ得サルニ出ツトハ言ヘ實ニ遺憾
ノ至極ト言フベシ殊ニ西郷、桂カ大隈、板垣ノ御接伴ニテ聯帶
辭職セサルヲ得サルハ氣ノ毒ノ至リト言フベシ云々

内閣總理大臣伯爵大隈重信殿

急

必親展

警保局長小倉久

警保局緘

内務省用

警保局緘

秘

當選報告　第三回

東京府

區	票数	党派	当選者
第三區	四〇五	憲　元進	△山田喜之助
次点	二二七	無	中沢彦吉

大阪府

區	票数	党派	当選者
第一區	三三七	無	△大三輪長兵衛
第二區	七九六	憲　元自	伊藤徳三
次点	三六	無	片岡直温
第三區	三五八	無	△前川槙造

京都府

第一區　二九三　無　△雨森菊太郎
次点一八七　憲元進　鈴鹿弁三郎
第二區　六三〇　無　中村栄助
次点一七六　仝　堀田康人

愛知縣
第一區　九一三　無　△鈴木惣兵衛

秘

第七回（當選見込報告）

長崎縣　第六區　憲　日高光太郎

島根縣　第四區　憲　元自　恒松隆慶

秘

衆議院議員當選報告

三十一年九月十二日

福岡縣

第七區

八五五 憲政党（元無所属） 山本喜三郎（貴）

次点 二九四 憲政党（元自由派） 福江角太郎

警視總監西山志澄

隈内閣總理大臣殿

火親展

楼ニ
吉
彩
作

慰胃
約ア
生是
ニハ
ナキ
以テ
悲ル
對的

乙秘第四七一號　十月十一日

喜多川樓非政府連ノ集會

國民協會院外者奔走ノ結果トシテ昨日午後六時京橋喜多川樓ニ

牧　朴真　坂田昌織　大埔戸宗重　松井廣吉
桂　席次郎　大岡　力　縣　新　辛嵐光彰
曾宮禄祐　酒井戊次郎　栗谷武一郎　山村郁作

ノ十二名集會シタリ

牧朴真曰ク　今日集會ヲ約セラレタル御方ノ中寺原長輝ハ感冒ノ爲メ朝比奈知泉龍居頼三ハ星ヶ岡茶寮ニ會合スヘキ先約アリ竹越與三郎ハ急ニ差支ヲ生シタリトテ徳富猪一郎ハ平生是等ノ集會ニハ出席セサルノ覺悟アリトテ其ノ中ハ發起人ニハ出席ヲ約セラレタリ二宮熊次郎ハ自分ハ出席スルモ妨ケナキモ吾人ガ自分ヲ以テ山縣元帥ノ影法師ナリト認メ居ルヲ以テ自分ニシテ出席スルニ於テハ累ヲ元帥ニ及ボサンコトヲ恐ルヽトテ出席ヲ斷リ来リ併シ是等ノ人々皆現政府ニハ絶對的

反對ナレハ口ナリ筆ナリ一齊ニ勒ヲ并ヘテ攻撃スルコトニハ同意ナリトノコトナリト披露シ更ニ語ヲ継キ現政府ノ政策ヲ見ルニ無智無能ニシテ外交ニ財政ニ行政ニ一トシテ見ルニ足ルベキモノナシ故ニ右諸問題ニ付テ調査スルノ必要アレハ一團体ヲ組織セザルベカラス過日某代議士ノ語ル所ヲ聞クニ代議士中ニ於テ已ニ憲政党内閣ニ倦ミタルモノ五十名是等ハ國民協會ニ入党スルコトヲ冀ハサルモノナシハ今吾々ガ一團体ヲ組織セバ右ノ輩等ハ擧テ我ノ擧ヲ賛成スルヤ疑ナシ云々

坂

坂田昌識曰ク　今現政府ノ執政ヲ見ルニ外交、財政、行政一ノ為ス處ナク實ニ牧君ノ述フル所ノ如シ貴族院ノ如キ調査ノ必要ナケレハ別ニ調査ヲ為サスシテドシ／＼否決スヘシトノ意見ヲ有スルモノ多數ナリト聞ケハ吾々モ寧ロ大膽ニ暫ク彼等ノ為スカ侭ニ任セ吾人ノ倦厭ヲ来スヲ待チ一大反對党ヲ組織スルモ未タ遅カラサルベシ云々

大岡力曰ク　現政府ニ反對ヲ表スルニハ要スルニ吾々ニ能ク屓ヲ

定メ置カサルベカラス先ツ第一ニ吾々新聞記者一團トナリ
國民協會其他ノ有志者ニ交渉シ以テ一大團体ヲ組織スヘシ云
々

桑谷武一郎曰ク　此方針ヲ定ムルニ二方法アリ其一ハ吾々新聞記者同志一團トナリ又國民協會及同志者ヲ以テ一團体ヲ組織シ此團体ハ兩々相待テ着々同一ノ運動ヲ為サン事ト其二ハ國民協会ヲ基礎トシ吾々同志ハ之レニ附随シ一大團体ヲ組織スル事トニ者其一ヲ選ンテ着手スル事トセン
ト結局第一説ニ賛成者多ク之レニ決シ而シテ本会ヲ準備会ト称シ本会ニ列席者ハ直チニ明日ヨリ同志間ヲ遊説シ多数ノ賛成者ヲ得ンコトヲ力メ追テ發企會ナルモノヲ開会スル事トシ其名称ヲ現政府反對同志會ト称スルコトニ決シタリ牧、五十嵐、縣、桑谷ハ帰途京橋区南佐柄木町待合亀の家ニ抵リ今十一日午後一時ヨリ酒井桑谷ノ兩人ハ牧ノ宅ニ會シ即チ發企人選定ノ下調ヲ為シ明十二日午後一時ヨリ前記十二名ノ人々國民協会ニ集会シテ本日牧ノ

宅ニテ下調セシ發企人ノ適否ニ付同意ヲ求ムルコトニシタリ
今後ノ會合ハ両院議員實業家ヲモ包含シ發企人タラシムル
筈ナレバ其人員約四五十名ノ見込ナリ尤モ廿日頃ニ開クヘキ次
會ノ發企人会ハ決シテ昨日ノ如キ寂々タルモノニハアラサルヘ
ク尚又大会ハ来月初旬又ハ本月末ニ開クヘキ豫定ナリ

乙秘第四七〇號　十月十一日

北陸倶樂部ノ發會式

昨十日午後四時頃ヨリ芝公園福住樓ニ於テ北陸倶樂部ノ發會式ヲ擧行シ高岡忠郷座長トナリ今回北陸倶樂部ヲ設立スルノ必要アルヨリ茲ニ同志者ト共ニ倶樂部ノ組織ヲナス上ハ萬事一致協力ト云フコト最モ今日ノ時勢上必要ト認ムルヲ以テ諸君モ北陸ノコトニ関シテハ将来協同シテ利害ヲ共ニセラレタシ云々ト述ベ次テ

趣意書及ヒ規約書ヲ朗讀シ

幹事ノ選擧ハ座長ニ一任スルコトニ決シ座長ハ左ノ人名ヲ指名セリ

遠藤秀景　波多野傳三郎　林　彦一　金岡又左エ門

常議員四十名ノ選擧ハ座長及幹事協議決定ニ一任シ追テ其人名ヲ報告スルコト

松本郡太郎ハ左ノ案ヲ提出可決セリ

一　北陸鉄道全通ヲ可成的速ニ實行ヲ期スル事

右ノ為メ幹事ニ於テ調査委員ニ付託シテ之レカ完成ヲ期スル為
メ次回ノ議會迄ニ多数ノ同情ヲ得ルマトニ運動スルコト
夫ヨリ酒宴ニ移リ八時廿分頃散會セリ

出席人名

遠藤秀景　八木原繁祉　井上平三郎　藤中觀那
松本郡太郎　髙野周省　保科保太郎　金子重藏
田邊熊一　田中恒吾　小島銀三郎　斎藤和平太
髙岡忠郷　福田常松　熊野喜太郎　黒田由雄
波多野傳三郎　加藤孫子　柳啓三郎　平井房平
市島謙吉　數津林傑　金國又左エ門　藻寄鉄五郎
清水康太郎　野村良次郎　大西佳太郎　上田良平
樋口良太　石塚六三郎　繁埜珠琳　朝倉外茂鉄
洲野善三郎　木吉九十郎　堀口琢器　飯田信秀
宇谷久平　半田穰　山際佳民　二谷甚兵衛
宮本某　玉川某

乙秘第四七二號　十月十一日

偕樂園ノ集會ニ就テ

偕樂園ノ集会ハ曩ニ日本橋倶樂部ノ会合ニ關シ革新派ノ感情ヲ害セリトノ説モアリ大会前ナル故ニ舊友相会シテ晩餐ヲ共ニスヘシトノ趣旨ニテ開會シ革新派ヘモ無漏通知シタルモノナリ然レ圧同派ノ出席者ハ岩崎蔦次郎外四五人ニシテ鈴木重遠ヲ發起者ノ一人トシテ出席セリ總數五拾餘人加藤政之助起テ開会ノ趣旨ヲ述テ曰ク本会合ハ全ク無意味ノモノナレ圧幸ニ諸氏ト相会シタルヲ以テ同意ヲ得タシトテ左ノ議ヲ提出セリ

大会前ナルヲ以テ相談ヲ要スル事件益々頻繁ナルヘキニ本部ハ茫漠ノ場所且ツ種々ノ人アリテ懇話ノ餘地モナケレハ同志者ニテ他ニ相當ノ場所ヲ借リ受ケ飲食遊戯ノ具ヲ備ヘ相談会場ト為スヿ

志賀重昂柴原和ハ旧進歩派而已ニテ別ニ倶樂部ヲ設クルハ自由派ニ對シ挑戦スルモノヽ如キ觀アリテハ不都合ナルヘシトノ説出

ヲタルモ元来發議ノ趣旨ハ誰彼ヲ問ハス同志者ヲシテ會合セシムル
ノ意ニ出テタルモノナリトノ説明アリテ結局舊派ノ何タルヲ論セス同
志者ノ遊戯場トシテ設置シ誰彼ヲ問ハス會員トナスニ決シ不日倶
樂部ヲ組織シ会場ヲ借入ルヽ事ニ決セリ

出席人名

山田喜之助　岡野　寛　大須賀庸之助　贄田剛橋　波多野傳三郎
岩崎萬次郎　柴原　和　円城寺　清　肥塚　龍　市島謙吉
伊藤泰造　首藤陸三　沼田宇源太　高木守三郎　久保田與四郎
角田真平　山田　武　安田　勲　高橋秀臣　加藤政之助
四宮有信　塩入太輔　小栗貞雄　丸山名政　淺香克孝
桝瀬軍之佐　鹿島秀麿　高田早苗　堀田連太郎　高梨哲四郎
内藤利八　安川繁成　志賀重昂　星野助左衛門　小鷹狩元凱
鈴木重遠　武富時敏　大隈英麿　門馬尚經　大矢四郎兵衛
内山松世　島田三郎　箕浦勝人　金岡又左衛門
外数人

答フルニ已ニ藤ガ本部ノ近傍ヲ借受ケアル由ナレハ同人ノ上京ヲ俟テ設クルコトニナスベシトテ之ニ決定シ是ヨリ宴會ヲ開キ同八時頃ニ散會シタリ

出席人名

田中賢道　臼井哲夫　江島粂雄　廣瀬貞文
野田卯太郎　多田勇　佐々木正藏　永江純一
箕浦勝人　宗像政　的野半助　小栗貞雄
添田寿一　楠本正隆　武富時敏　柏田盛文
長谷場純孝　松田正久　多田作兵衛　小山某
浦部某　上田某　秀島某　泉某
森某　菊池某　植田某　中松某
坂井某　池松某

以上

大隈總理大臣殿

必親展

警視總監西山志澄

乙秘第四一八號

鈴木重遠児島惟謙首相ヲ訪ハンカス　九月十七日

鈴木重遠児島惟謙ノ両人ハ愛媛倶楽部ノ決議ヲ齎ラシ明十
八日首相ヲ訪ヒ大ニ論スル所アラントストニフ其ノ大意ハ政府ハ何故ニ
根本的改革ヲ為スヲ躊躇スルヤ根本的改革ヲ為ス能ハサルノ事
情アリトノコトナレハ何故首相ハ其ノ職權ヲ以テ之ヲ截斷セサルヤ首相
カ之ヲ截斷スル能ハストセハ宜シク速ニ掛冠勇退スヘシ根本的ノ改革ヲ
モ為ス能ハス又辭職ヲモ決行スル能ハストセハ余等ハ增税案其ノ他
重要問題ニ反對セサルヲ得サルニ至ルヘシト云ニ

内閣總理大臣伯爵大隈重信殿

急

必親展

警保局長小倉久

秘

第二回（当選見込報告）

東京府

第一區	無	安川繁成
第四區	憲	横山富次郎
第五區	仝 元自	利光鶴松
第七區	仝 元進	松田秀雄
第八區	仝	田口卯吉
第九區	仝 元進	鳩山和夫
第十區	仝 仝	堀田連太郎
第十一區	仝 仝	浅香克孝
第十三區 二人	仝 元自	青木正太郎
	仝	村野常右エ门

内閣総理大臣伯爵大隈重信殿

親展

京都府
第三區　憲　元進　小松喜平治
第五區二人　仝　仝　石原半右エ門
無　野尻岩次郎

山梨縣
第一區　憲　元自　齋藤卯八
第二區　仝　仝　河口善之助
第三區　仝　秋山元藏

埼玉縣
第一區　憲　元進　加藤政之助

第二區　二人　仝　仝　福田久松
　　　　　　　仝　元自　粕谷義三
第三區　二人　仝　仝　新井啓一郎
　　　　　　　仝　仝　長瀬清一郎

神奈川縣
第三區　憲　元自　徳増源太郎
第四區　仝　仝　梶野敬三
第五區　仝　仝　安藤亀太郎

兵庫縣
第五區　憲　元進　平岡萬次郎

第七區　憲　元進　岡本松太郎

長崎縣

第一區 二人　憲　元自　冨永隼太
　　　　仝　仝　淺田次郎
第二區　仝　元進　今村千代太
第三區　仝　　　臼井哲夫
第四區　仝　元自　草刈武八郎
第五區　仝　仝　宮崎榮治

總理大臣伯爵大隈重信閣下

親展

警視總監西山志澄

乙秘第三四五號　八月八日

八月七日午後七時第二区旧中島派ニ屬スル有権者
川村武男　中村正直　由良浅太郎　後藤亮之助　池上重兵衛
酒井榮　山本為五郎　相原吉之助　外二人
京橋區新肴町開花亭ニ集會シ中澤彦吉ガ候補ヲ辞退セシモ飽迄同人
ニ投票セントテ其運動方法ヲ協議シ區内ヲ五部ニ分チ運動者トシテ
由良浅太郎　伊東勘七　池上重兵衛　山本為五郎　小久保文助等
ヲ選定セリ而シテ彼等ハ本朝来各有権者間ヲ勧誘奔走シ居リ勝算ノ見込
充分ナリト語リ居レリ

警視總監西山志澄

大隈總理大臣殿

必親展

番外　　九月八日　　（内相局長）

園田男ノ談話

貴族院無所属議員松平正直来訪其云フ處ニ依レハ第十三議會ノ色分ケハ先ツ三百人ノ内親王家并ニ大山伊藤山縣等ノ諸氏ハ無論欠席トシ其数二十名ヲアラン然ラハ残リ二百八十名ノ内僅カニ百八十名ハ硬派トシ去就ヲ共ニスルモノナリ次キノ土曜日迄ニハ平田東助モ自派ニ引入レル筈ナリト云ヒシニ依リ此数ハ先ツ確實ナルモノト我輩ハ信シ居レリ既ニ過日無所属議員等上野精養軒ニ集会シ我輩ニモ出席ヲ促シ来リタレ圧行カサリシ亦大隈首相ヨリモ案内状来リ居ルガ是モ御免ヲ蒙ル積ナリ云々

警保局長小倉之

内務省用

大隈内閣總理大臣殿

急
必親展

秘

秘

當選報告　第十三回

埼玉縣

第四区人二

三、四三〇　憲　元自　△齋藤安雄

三、二六四　憲　元進　堀越寛介

次点　二、三六〇　國　小沢愛次郎

一九八　國　松岡三五郎

和歌山縣

第三区人二

八三九　憲　元自　△山口熊野

七九七　塩路彦右エ門

次点　五五三　、無　山本隆太郎

大隈内閣總理大臣殿

必親展

警視總監西山志澄

延テ余ノ徳ヲモ汚スニ至ルヘケレハ宜シク此等ノモノヽ出入
ヲ差止メラルベシト言ヒタルコトアレ共余ニハ余ノ持前アリ如

乙秘第四二八號　九月廿一日

高島将軍ノ談

高島将軍此ノ程客ニ語リテ曰ク

余ト巳代治トノ交情温ナラス終始手ヲ提テ政治上ニ起ツ能ハサルカ如ク言フモノアル由ナレ𪜈是レ一離一合ハ政治家ノ常状ニシテ今日反目疾視口ヲ極テ相罵ルモ明日ハ卓ヲ一ニシ對座笑テ食ヲ共ニスルモノ和漢西洋此ノ類ニ乏シカラサルヿヲ知ラサルモノヽ推測ナルヘシ平生氷炭啻ナラサリシ大隈板垣両伯カ聯立朝ニ起チ大政燮理ノ衝ニ當ルカ如キ亦其ノ證ナリトス

余ハ余ノ目的ヲ達スルニ於テハ如何ナル人物ニテモ提携スルヿヲ避ケス先頃園田(安賢)カ来リシ時余カ門下ニ出入スルモノ多クハ市井ノ無頼共ニ政治ヲ談スルニ足ラサルモノ共ニシテ延テ余ノ徳ヲモ汚スニ至ルヘケレハ宜シク此等ノモノヽ出入ヲ差止メラルヘシト言ヒタルヿアレ𪜈余ニハ余ノ持前アリ如

何ナル人物ニテモ来ルモノハ拒マス去ルモノハ追ハストノ主義ヲ恪守スルモノナル故仮令市井ノ無頼ニモセヨ彼レヨリ来リ交ヲ乞フモノナレハ余ハ之カ出入ヲ差止ムルヿハ断シテ之ヲ為サヾル覚悟ナリ

況ンヤ巳代治ノ如キ或ル点ニ於テ極メテ批難多キ人物ナルモ才慧機智事ニ當リ應変ナルヿ近来絶無ノ傑物ナルニ於テオヤ巳代治ノ如キハ余カ進ンテ交情ヲ温メ共ニ政治上ニ奔走スルヲ希望スルモノナリ云々

秘

第一條　此ノ勅令ハ衆議院議員ノ選挙其ノ他法律命令ニ依リ組織シタル議會ノ議員ノ選挙ニ関シ之ヲ適用ス

第二條　選挙人議員候補者及選挙運動者ニシテ銃槍戟仕込刀劍仕込銃竹槍棍棒其ノ他人ヲ殺傷スルニ足ルヘキ物件ヲ携帯スルトキハ十一日以上二年以下ノ軽禁錮又ハ五円以上二百円以下ノ罰金ニ処シ其ノ物件ヲ没収ス

憲兵又ハ警察官ハ必要ト認ムル場合ニ於テ前条（項）ノ物件ヲ押収スルコトヲ得

第三條　左ノ各号ニ該當スル者ハ一月以上一年以下ノ軽禁錮ニ処シ又ハ十円以上百円以下ノ罰金ニ処ス但シ其ノ収受者又ハ受諾者ニシテ選挙當日後二十日以

内ニ自首シタル者ハ其ノ罪ヲ論セス
一 選擧ニ関シ直接又ハ間接ニ金錢物品手形其ノ他ノ
利益若ハ公私ノ職務ヲ選擧人又ハ選擧運動者ニ供
與シ又ハ供與センコトヲ申込タル者又ハ供與若ハ
申込ヲ承諾センコトヲ周旋勧誘シタル者並之ヲ受
ケ若ハ申込ヲ承諾シタル者
二 選擧ニ関シ酒食遊覧等其ノ方法ノ何タルヲ問ハス
人ヲ饗應シ又ハ饗應ヲ受ケタル者又ハ選擧會場開
票所若ハ投票所ニ往復スル為船車馬ノ類ヲ給シ及
其ノ供給ヲ受ケタル者又ハ旅費若ハ休泊料ノ類ヲ
代辯シ及其ノ代辯ヲ受ケタル者
三 選擧ニ関シ選擧人又ハ其ノ関係團體ニ對スル用水
小作債權債務寄付等其ノ他利害ノ関係ヲ利用シ選

挙人ヲ誘導シタル者及其ノ誘導ニ応シタル者

第五條　左ノ各号ニ該当スル者ハ二月以上二年以下ノ軽禁錮ニ処シ五円以上百円以下ノ罰金ヲ附加ス

一　選挙ニ関シ選挙人ニ暴行脅迫ヲ加ヘ若ハ之ヲ拐引シタル者

二　選挙人ニ対シ往来ノ便ヲ妨ケ又ハ詐欺ノ手段ヲ以テ選挙権ノ行使ヲ妨害シタル者

三　選挙ニ関シ選挙人又ハ其ノ関係団体ニ対スル用水小作債権債務其ノ他利害ノ関係ヲ利用シ選挙人ヲ威逼シタル者

第六條　当選ヲ妨クルノ目的ヲ以テ演説又ハ新聞紙雑誌引札張札其ノ他何等ノ方法ヲ以テスルニ拘ラス被選挙人ニ関シ虚偽ノ事項ヲ公ニシタル者ハ十一日以

上六円以下ノ軽禁錮ニ処シ二円以上五十円以下ノ罰金ヲ附加ス但シ新聞紙雑誌ニ在テハ其ノ署名シタル編輯人ヲ処断ス

第七條　此ノ勅令其ノ他法律命令ニ依リ組織シタル議会ノ議員選挙ニ関スル一切ノ罰則ニ触レ刑ニ処セラレタル者ノ為シタル記名投票ハ之ヲ無効トス但シ連名投票ノ場合ニ於テハ投票中其ノ関係者ノミヲ無効トス

第三條ニ依リ自首シタル場合ニ於テモ亦前項ノ例ニ依ル

第八條　此ノ勅令ニ依リ刑ニ処セラレタル者ニ関シテハ衆議院議員選挙法第九十九條第百一條ノ例ニ依ル

第九條　此ノ勅令ニ依ル犯罪ノ時効ニ付テハ衆議院議

員選擧法第百四條ノ例ニ依ル

第十條　法律命令ノ規程ニシテ本令ニ牴觸スルモノハ総テ本令ニ依ル

大隈外務大臣殿

親展

乙秘[illegible]

[illegible]自由党青年県会[illegible]

本日神田錦輝館ニ自由党青年会ナル名称ノ下ニ旧自由党[illegible]志士懇親会ヲ兼ネ青年ノ県会ヲ催シタリ[illegible]百名許[illegible]一時開会々場席ノ周囲ニ祭[illegible]党志士ノ霊ト記シ[illegible]種ノ供物ヲ[illegible]楷奏楽笙[illegible]リテ午后三時ニ至リ[illegible]発起人ニ代リ[illegible]開会ノ趣旨ヲ陳ベタリ

曰ク我々ハ此ノ五六ケ月ノ間警政ノ[illegible]ニ消光セシガ今日始テ[illegible]ヲ感セリ之レヨリ我々ハ国家ニ尽スベキ時トナリタレバ諸君ハ[illegible]ツテ尽[illegible]セラレンコトヲ[illegible]レ祝スベク亦悲ムベキ日[illegible]閉会セン[illegible]ヲ希望ス云々[illegible]中ニ

次キニ鈴木稲之助ハ会長ヲ宮部襄ニ指名シ根岸亀三郎ハ

決議案

旧自由党ニ属スル我々青年ハ明治三十一年十月二十九日錦輝館ニ

警視総監西山志澄

乙秘第五四五號　　十月二十九日

旧自由党青年集會

本日神田錦輝舘ニ自由党青年会ナル名称ノ許ニ旧自由党殉党志士懇親会ヲ兼ネ青年ノ集会ヲ催シタリ集会者凡三百名午后一時開会々場床ノ間ニ祭殉党志士ノ霊ト記シタル掲紙ニ諸種ノ供物ヲ為シ落語奏楽等アリテ午后三時ニ至リ伊藤仁太郎発起人ニ代リ左ノ開会ノ趣旨ヲ陳ベタリ

我々ハ此ノ五六ケ月ノ間鬱悶ノ程ニ消光セシガ今日始テ爽快ヲ感セリ之レヨリ我々ハ国家ニ尽スベキ時トナリタレバ諸君ハ奮ツテ尽瘁セラレンコトヲ望ム亦本日ハ先輩殉党志士ノ例祭ニ相当シ祝スベク亦悲ムベキ日ナルヲ以テ殊更飲酒ヲ廃シタレバ静粛ノ中ニ閉会センコトヲ希望ス云々

次キニ鈴木稲之助ハ会長ヲ宮部襄ニ指名シ根岸貞三郎ハ

決議案

旧自由党ニ属スル我々青年ハ明治三十一年十月二十九日錦輝舘ニ

必 親展

大会ヲ開キ左ノ各項ヲ決議ス

一総理大臣大隈重信ハ内閣ヲ統一スルノ智能ナキノミナラズ国家ニ對シ不忠不義ナリトス依テ之ヲ弾劾シ併テ大隈ヲ首領トスル進歩党ニ絶對的反對ヲ為スコト

一憲政党解党ヲ賛シ新ニ組織シタル憲政党ヲ擁護シ全情至誠以テ国家ノ為メニ尽瘁スベキコト

トノ決議案ヲ朗讀シ満場之ヲ是認セリ

次キニ小田切哲次郎ノ祭文朗讀瀬戸荒熊ノ吊詞石坂昌孝会員総代ノ焼香アリ終テ懇親会（鮨一折煎餅一袋）ニ移リ奥野市次郎濱名信平ノ席上演説アリテ午后二時四十五分無事閉会セリ而シテ出席者中ノ重立チタル者左ノ如シ

西村淳藏	中島又五郎	高木栄太郎	石坂昌孝	渡辺勘十郎
後藤亮之助	佐藤貞幹	中村克昌	宮部襄	林包明
奥宮健之	青山忠右エ門	磯辺太郎兵エ	井手毛三	金井貞
吉田朝太郎	土居一郎	秋山正作	添野正造	井上隆治

細野喜代四郎　山内　一正　小橋栄太郎　深山　偉峴　永井嘉六郎

駒林　廣運　廣岡宇一郎　鈴木稲之輔　瀬戸　荒熊　比留間邦之助

仙波　兵庫　新井　章吾

畠山雄三
大久保鐵作
小栗貞雄
鈴木文三郎
上田良平
名須川良平
佐藤岳端

遠藤秀景
伊藤直純
河野廣中
蒲田廣
進藤喜平太
小畑岩次郎
阿部孝左衛門

長澤鼎之輔
江島久米雄
丹野弥七郎
楠本正隆
諫早家崇
久須美秀三郎
外十五名

大和正夫
江藤新作
遠藤善夫
首藤陸三
小笠原貞信
井上平三郎

大隈内閣総理大臣殿

必親展

警視總監西山志澄

常キ農

両派ノ行動

情ノ為メニ

困難アル

リニ至リタ

ニ視スベキ

カ調停

々次ニ擁

ヲ争ヒタ

党ヲ組織

大ニ祝スベ

更迭シテ

キコトス然ルニ本年三月来ニ於テ…

自進両党分離セントスルニ至リタルハ最モ遺憾トスル所ナリ然シ

乙秘第五四二號　十月廿九日

九州東北両派懇親會

昨日午後四時ヨリ紅葉館ニ於テ九州東北両派ノ懇親会ヲ開キ発起人河島醇ハ今回両派ノ懇親会ヲ開キタルハ従来両派ノ行動一致ニ出テタルコトハ言フ迄モナシ今ヤ我党ハ僅々タル感情ノ為メニ分離セントスルニ至リタルガ原来我ガ同志者ハ幾多ノ困難アルコトハ豫知タル所ナリ然ルニ幸ヒ今日両派ノ懇親会ヲ開クニ至リタルニ出席ノ諸君ノ豫想外ニ出テタルハ誠ニ我党ノ為メニ祝スベキコトトス我々同志ハ進ミテ今回ノ如キ紛擾ハ努メテ之レカ調停ヲナサントス幸ニ同志諸君ノ賛成アランコトヲ希望ス云々次ニ楠本正隆ハ述テ曰ク抑々改進自由両派ニシテ互ニ其雌雄ヲ争ヒタルトキト今日トハ大ニ其趣ヲ異ニシ相同一致シテ憲政党ヲ組織シ政党内閣モ成立スルニ至リタルハ実ニ我国家ノ為メ大ニ祝スベキコトトス然ルニ成立以来未ダ数月ナラザルニ文部大臣更迭シテ旧進両党分離セントスルニ至リタルハ最モ遺憾トスル所ナリ然シ

仍我々ハ飽迄此ノ事ニ就キテハ調停ヲナサンコトニ尽力中ナルガ萬一不幸ニシテ破裂スル時ハ将来大ニ憂フベキコトニ至ラン故ニ今日爰ニ会合シタル諸士ハ充分ニ調停ニ尽力アランコトヲ希望ス最モ分離スルノ不幸アルモ我々ハ憲政党ヲ維持スルノ決心ナルヲ以テ諸君ノ賛成アランコトヲ希望ス云々演説終ルヤ酒宴ヲ開キタルニ憲政党本部ヨリ龍野周一郎武市彰一ノ両名楠本来訪シ明日ノ協議会ヲ開クコトニ付テハ目下党ノ紛擾ノ際ナルヲ以テ此際延会スベシトノ協議ヲナシ各代議委員ニ通知スルコトニナリタルカ尚ホ楠本ニ協議ヲナサントテ直チニ本部ニ来ルヘキ旨ヲ両名ヨリ懇請ナシタル為メニ宴酣ニシテ楠本ハ立チ去リシモ其他ハ同八時三十分頃ニ散会シタリ

出席人名

菅野善右衛門　奈須川光寶　小倉良則　斎藤良輔
小田為綱　林杉山寿　門馬尚経　三沢綱蔵
芳賀宇之吉　赤坂儀作　大隈英麿　大島信

乙秘第四八七號　十月十三日

憲政党各團体實行委員会合

本日午後三時頃ヨリ憲政党本部ニ於テ各團体ノ實行委員会合ナシタルガ其要領ハ過日柳花苑ニ於テ開キタル聯合会ニテ決議シタル條件ヲ各大臣ヲ訪問シテ以テ其目的ヲ貫徹スルコトニ決定シタルカ第一大臣ニ於テ各團体ノ意見ヲ容レサルトキハ該問題ヲ大会ニ提出スルコトヽシ尚又是迄十團体聯合ナシ來リシモ今回日本橋倶樂部富士見十三州会モ交渉ノ結果聯合運動スルコトニ決シ同五時過散会セリ

出席人名

渡邉勘十郎　佐藤琢治　奥野市次郎　天野確郎

森　肇　田村順之助　川村　驊　黒須龍太郎

小畑岩次郎　外一名

権ハ決シテ藩閥ニハ渡サスト結合シ居ルノミナラス近来
支那ノ政変ハ転シテ国内ノ人心ヲ一致セシムル傾キアレ
ハ最早党中異議アルモ容易ニ分裂スルカ如キヿハアルマ
ジ只タ豫算ノ上ニ於テ一敗セザルヲ得ザルベシトノ懸念
アルノミ　問フ貴君一個ノ御方針如何予ハ国家ノ利害上
ニ付テハ充分研究シ居ル考ヘナリ賛否共ニ其機ニ應シ度
精神ナリ云々
以上

大隈内閣総理大臣殿

必親展

警視総監西山志澄

ニハ反対スルモノアラン予曰ク第一者ハ議某…

秘乙第四八六號　　十月十三日

訪金子堅太郎

昨十二日午后四時金子ト会見ス同氏ハ研究会ニ屬シ居レトモ他派ノ意向ニモ通ス予問テ曰ク貴族院議員ハ現今一致現内閣ニ対スルノ事実何レノ点マデ発達シ居ルヤ
答曰ク議員中大別シテ三種アリ又其中間ニ貳種アルナリ
第一不信任問題ヲ提出セントスル一派　第二新税目ニ反対スル一派　第三左程マデ極端ニ走セストモ彼等自身ニ必然自殺スル時機ヲ待ツテ大ニ処スル所アルベシト云フ一派ナリ又其二種トハ右第三者ノ中ニ政府党ノ意味ヲ含ミタルモノト純粋政府党トナリ最モ其二種中或ハ新税目ニハ反対スルモノアランヤ予曰ク第一者ハ誰某等アルヤ

答曰ク園田安賢中村元雄髙橋新吉等ノ仲間ナリ　問フ何ヲ以テ不信任案トナスヤ　答尾﨑文部大臣ノ演説ヲ黙視スルヲ以テ之ヲ提出スルモノナリト言フモ其説ニ同意スル者僅少ナリ　問フ合計幾人位ナルヤ　答今日能ク分カラスモ弐参拾名ナラン　第二者新税目ニ反対スルモノハ第一者モ第三者モ同意スル人多シ　問フ閣員退職シタル時ハ第二ノ内閣ハ如何ナル人ヲ以テ成立スル見込ミナルヤ　答又御前会議トナルナランカ大方山縣西郷井上松方黒田等互ニ總理ノ椅子ヲ譲リ合ヒ結局山縣松方ノ中ニ決定スベシ而シテ其内閣モ亦タ一ヶ年位ニシテ瓦解シ伊藤ハ実業家ノ團体ニ推サレ其ノ後ヲ襲ヒ總理ノ椅子ニ靠ルベシ是等ガ先ヅ今日ヨリ形勢上推測シ得ル豫言ナリ然ルニ憲政党ハ倍々地盤ヲ堅固ニシ楠本星等モ一度握リシ政

次郎殿

警視總監西山志澄

乙秘第七四八號

東北人会合　十月三十日

本日午前十時京橋区木挽町万安楼ニ於テ左記人名会合シ今回憲政党軋轢ノ結果自進両党派分裂ノ件ニ付今後ノ方針ニ對シ協議セシカ結局左ノ如ク決セリ

一 憲政党分裂ヲ是認シ更ニ組織セル新政党ニ加入スル事

一 右ニ附シ団体ヲ組織スル事トシ仮名称ヲ憲政党東北倶楽部ト称シ本日会合者ハ悉ク加盟スル事

一 右事務所ハ当分ノ間山下千代雄方ニ假設スル事

一 右役員及規約書起草ノ件ハ佐伯某ニ一任スル事

右協議結了シ直ニ登楼ノ上午後一時頃一同退散セリ

出席人名

山下千代雄　小倉信近　下飯坂権三郎　駒林広運

菅原傳　平田箴　重野謙次郎　佐藤敬治

阿部孫左衛門
佐伯 某
入山 某
外八名

宮林宰一
小橋 某
佐藤 某

下将権之助
伊澤 某

花村 某
松浦 某

決議案

吾黨ハ本期議會ニ於テ財政ヲ整理シ以テ歳計ノ均衡ヲ保チ選擧權ヲ擴張シ以テ人權ノ發達ヲ圖リ地方制度ヲ改良シ以テ自治制ヲ鞏固ニシ其他多年ノ宿論ニ係ル重要ノ事項ヲ實行セムコトヲ期ス

但シ其ノ實行ノ方法運用ハ之ヲ吾黨代議士會ニ一任ス

黨則改正案

一 黨則第二條中總務委員ノ一項ヲ左ノ如ク改正ス

一 總務委員　五名

大隈内閣総理大臣殿

必親展

警視総監西山志澄

乙秘[illegible]

青年会[illegible]タル元老改[illegible]ノ大会ヲ解散ス

十一月一日元老改党大会ヲ神田[illegible]青年会館ニ於テ会ス

ルモノ無慮四百人午前十時二十五分河野広中起テ[illegible]

ヲ本会ノ議長ニ[illegible]議長ハ之ニ任セラレタシト述ベ満場拍手ヲ以テ

ヲ是認スルヤ議長ハ決議案ハ各員ノ手許ニ配布シ置キタ

另ナシ右ニ付審議セラレタシト宣言スル一刹那[illegible]

ル神田[illegible]ルハ同午時二十七分ナリシ

[illegible]

率退[illegible]

決議[illegible]別帋ノ如シ

乙秘第五五〇號　　十一月一日

青年会堂ニ於キタル元憲政党ノ大會ヲ解散ス

十一月一日元憲政党大會ヲ神田區美土代町青年会堂ニ於テ會スルモノ無慮四百人午前十時三十五分河野廣中起テ僭越ナカラ本會ノ議長ハ不肖ニ任セラレタシト述ベ満場拍手ヲ以テ之ヲ是認スルヤ議長ハ決議案ハ各員ノ手許ニ配布シ置キタル筈ナレハ右ニ付審議セラレタシト宣言スルヤ一刹那臨監ノ神田警察署長ハ集會及政社法第十二條ニ依リ解散ヲ命シタリ此間一二故障ヲ申立居ルモノアリタルモ結局無事退散シタルハ同十時三十七分ナリシ

決議案別紙ノ如シ

大隈内閣總理大臣殿

必親展

警視總監西山志澄

出席人名

清水安四郎
江向俊一
堀　雄夫
広瀬安雄
横溝来平
遠佐　茂
小川　虎一
宮崎吉八郎
宮沢頌譲
藤崎国雄
麦田宰三郎
河西好穂
門脇章雄
栗田量三郎

鈴木友作郎
深山衛一晴
竹内撲一
大島杉鶴
金子　悦
佐藤昌彪
杉池一郎
植松達蔵
柳瀬格郎
山本太脩
岡崎邦輔
諸隈内作郎
桑田佐三
宮津仲郎

野向恵四郎
仙波名庄
烏山陣蔵丁郎
小田　貫一
梶野　敏三
鎌田伊太郎
菅刈武八郎
岩崎一三郎
中沢棟太（高十三）
横山　鋭
田村順之助
熊谷鐵陽
田口泰彪
根本　正

片岡久[illegible]郎
板倉　中
小尾銘雄
佐々田懋
福家精一
片岡直忠
岩永雅太郎
藤井保郎
小川光学
宮古董平郎（忠清十三）
佐々木富榮
飯塚金彪
清水松人
富島叙八

林　勘作
串本　藤三
田中　賢道
長屋　謹二
小原　信綱
松村　慶茂
中神　光次
成瀬　耕三
橋井　勘作
圓山　勇
井上　毛三
青山　義雄
多田　悦之助
田中　清作
富田　保之助

永井　喜代作
西薗　宗三
山崎　栄作
田原　廣次
江原　素六
早川　権弥
坂本　元吉
黒川　義忠
青木　正太郎
福田　清治
新井　毅作
東條　孝
鯉淵　九作
熊野　岩作
石黒　涵一郎

伊藤　文三
野口　重助
花井　三之助
宮崎　柴治
山田　利多郎
千田　徹
千田　軍之助
山本　繁造
江原　朗
渡辺　信正
森　東一郎
竹内　向邦輔
山縣　金治
古荘　嘉門
國友　情

上條　達作
飯島　正作
富永　隼太
渡瀬　源作
河野　領作
清原　英三
岩坂　徹作
利光　鶴松
金井　貞
佐々　鎮吉
村野　常右衛門
山本　孝表
荒川　隆周
木下　安作
山口　熊野

土居一郎
前島定之助
佐藤留八郎
東條正平
河口萬之助
松井壮
吉田七平
園脇喜治
林庄一
森本亮
山田吉之高
佐藤稼治
植木敏一
本村凱
新井亮吉

長坂重孝
林壽
大久保弥太郎
赤瀬清一郎
塩田豊造
高野一郎
日高角太郎
佐藤金悦
三田村順太郎
中田猶之萬
藤永隆三
栗山行一
大瀧清十郎
遠藤義文
佐久間好道

堀尾義助
堀家虎造
伊藤清三
入山林治
高澤雅雄
松浦保次
梅田直
村上佐良
時家又左馬
上出長作
山岡昇三
平田識
山口宗尚
星亨
石橋金平

浦野銀正
石田忠二
鈴木鐵之馬
岩崎幸太郎
高森貞敏
中方龍助七
森田正路
濱崎正策
田中幸太郎
橋爪誠太郎
松本正友
下條俊權吉
瀬恒宗
若野清
鳩田清東

杉[illegible]功三
木[illegible]太夫
田中美知太郎
小[illegible]

篠田英雄
蓮實重康
[illegible]次

西村順三
高津春繁
前田陽一

[illegible]太郎
[illegible]三

乙秘第五四三號　十月廿九日

憲政黨解黨ス

憲政党ハ本日午前十時半ヨリ江原素六ヲ議長トシ先決問題トシテ本日ノ協議会ハ有効ナリヤ否ヤニ付会議ヲ開キ満場一致ヲ以テ有効ト決シ征矢野半弥憲政党解散ノ動議ヲ提出シ満場一致之ヲ可決シ西原清東ハ新ニ政黨ヲ組織シ憲政党ト命名スヘシトノ議ヲ提出シ是亦満場一致ヲ以テ可決シ奥野市次郎新政黨ノ主義綱領ヲ朗讀シ審議ヲ用ヒス之ヲ可決シ党則ニヨリ星亨、片岡健吉、江原素六ヲ總務委員ニ（總務委員四名ナレトモ一名ハ欠員）利光鶴松、龍野周一郎ヲ幹事ニ推選シ残務ハ石塚重平、新井章吾ニ於テ處理スルコトニシ散会シタリ

（此間星亨ノ演説アリシモ其ハ追テ内報スヘキニ付略ス）

此ノ日會同シタルモノ凡弐百五十人許ナリシ

乙秘第五四四號　十月廿九日

憲政党協議会大會ノ状況

本日神田青年会舘ニ開キタル協議会ハ来会者二百五十余名傍聴者五十名計ニシテ午前十時廿五分開会佐岡健吉登壇シ開会ノ趣旨ヲ述ベ會長指名自己ニ委任セラレンコトヲ求メ満場ノ同意ヲ得テ江原素六ヲ推定セリ

江原會長席ニ就キ本日ノ協議会ハ正當ノ順序ニ依リ通知書ヲ發シタルモノナリトテ進歩派楠本正隆ト昨日以来ノ交渉顛末ヲ詳述シ尚昨夜ニ至リ楠本ヨリ下ノ挨拶状送リ越セシニ付昨日兩會ノ五郎充分商議ノ上決定シタルモノナレバ承知ナキ筈ナシトノ返書ヲ送リタル旨ヲ報告セリ

拝啓明廿九日協議会ノ大會ハ貴下等ノ專斷ニ係ルモノニシテ我々ノ兼知セシモノニ無之候間此段申進候也

次ニ江原ハ語ヲ續ケ本日迄ノ経過如斯ナルヲ以テ一應本協議会ハ有効ナリヤ将タ無効ナルヤヲ決定シタシト述ベ西原清

東ハ本協議會ハ最初ヨリ完全無欠ノモノナリト發言セリ（次ニ利光鶴松ハ本會ノ期日ハ總務委員ノ多數決ニ依リ不請ニ之レヲ決定セシモノニ非ラス全ク合意上成立セシモノナリ云々ト陳弁スル處アリタリ）満場之レニ和シ協議會ヲ開クニ至リシガ西原ハ協議會ヲ進行スルニ及ハス直チニ憲政党大會ヲ開クベシト建議シ満場一致ヲ以テ之レニ決ス即チ大會ニ移リ石矢野半弥起立シテ憲政党解党ヲ建議シ星亨賛成登壇ノ上其趣意ヲ演説セリ

（要旨）予ハ海外ニ在テ憲政党樹立ノコトヲ聞キ「ヤリツクナツタ」トノ感想ヲ懐キタリシ果セルカナ帰朝今日ニ至ル迄ノ経過ヲ観レバ二党ノ裏面ニ於ケル嫉視反目ト云ヒ感情ノ相異ルト云ヒ益ニ相近クベクニシテ相遠サカルノ有様ニテ到底今後融和スベクモアラズ夫ノ財政整理問題ニ於テハ財源定マラズ朝ニ之ヲ定メテ夕ニ之レヲ改メ亦内閣ニ在テハ大臣交々内奏ヲ為シ民間ニ在ツテハ党員互ニ密議ス上下各不統一ニシテ

樹立ノ當時ニ於ケル憲政党究備舊慣打破ナル二大趣旨ニ
反スル之レ皆大隈伯及其眷族ガ之レヲ為サシメルモノニシテ國
家ノ進運ヲ妨ケ党内モ亦到底融解提携スベキコト能ハ
ザルモノナレハ遺憾ナガラ茲ニ憲法党解党ノ發議ニ賛成ス
ルモノナリ云々

右演説終ルヤ満場拍手喝采直チニ本議ヲ可決ス
西原清東ハ再ビ起立シテ新政党組織ノ建議ヲ為シ満場異議
ナク之レニ決シ奥野市次郎ハ綱領及党則ヲ朗讀（新タニ憲政党
ト命セシモノ）シ一同ノ承認ヲ得タリ
次ニ征矢野半弥ハ總務委員ノ推擧ヲ自己ニ任セラレンコトヲ
求メ四名ノ内三名ヲ直チニ選擧シ残リ一名ハ今後ノ入党者中
ヨリ之レヲ選擧センコトヲ述ベ是亦満場ノ承認ヲ得江原、片
岡、星ノ三名ヲ指名セリ尚幹事五名ノ内二名ヲ總務委員
ノ指名ニ委センコトヲ請ヒ江原素六ハ即チ利光、龍野ノ二名ヲ
指定セリ

次ニ残務委員トシテ石橋重平、新井章吾、田中吳道ノ三
名ヲ選ビタリ
終リニ　天皇陛下萬歳ヲ三唱シ憲政党萬歳ヲ一呼
シ午前十一時十七分無事閉会来会者一同車ヲ聯ネテ憲
政党本部ニ赴ケリ

大隈總理大臣殿

必親展

警視總監西山志澄

旧自由党ニ属スル秋々青年ハ明治三十一年十月二十九日錦輝館ニ

乙秘第五四五號　　　　　　十月二十九日

旧自由党青年集會

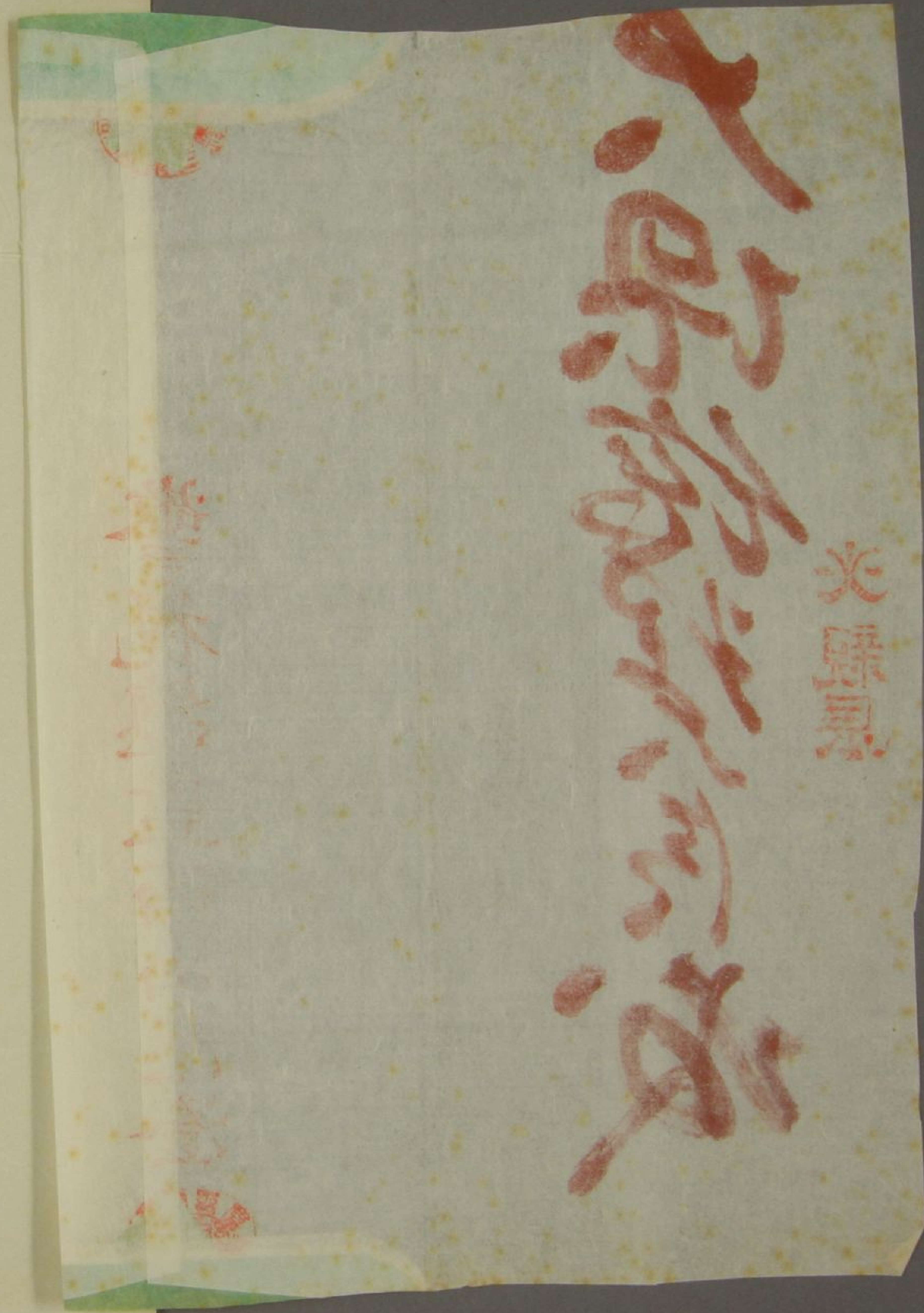
本日神田錦輝館ニ自由党青年会ナル名称ノ許ニ旧自由党殉党志士懇親会ヲ兼ネ青年ノ集会ヲ催シタリ集会者ハ三百名午后一時開会々場床ノ間ニ祭殉党志士ノ靈ト記シタル掲紙ニ諸種ノ供物ヲ為シ落語奏樂等アリテ午后三時ニ至リ伊藤仁太郎発起人ニ代リ左ノ開会ノ趣旨ヲ陳ベタリ

　我々ハ此ノ五六ケ月ノ間鬱悶ノ程ニ消光セシガ今日始テ爽快ヲ感セリ之レヨリ我々ハ国家ニ尽スベキ時トナリタレバ諸君ハ奮ツテ尽瘁セラレンコトヲ望ム亦本日ハ先輩殉党志士ノ例祭ニ相当シ祝スベク亦悲ムベキ日ナルヲ以テ殊更飲酒ヲ廃シタレバ静粛ノ中ニ閉会センコトヲ希望ス云々

次キニ鈴木稲之助ハ会長ヲ宮部襄ニ指名シ根岸貞三郎ハ

　決議案

旧自由党ニ属スル我々青年ハ明治三十一年十月二十九日錦輝館ニ



大会ヲ開キ左ノ各項ヲ決議ス

一 総理大臣大隈重信ハ内閣ヲ統一スルノ智能ナキノミナラズ国家ニ對シ不忠不義ナリトス依テ之ヲ弾劾シ併テ大隈ヲ首領トスル進歩党ニ絶對的反對ヲ為スコト

一 憲政党解党ヲ賛シ新ニ組織シタル憲政党ヲ擁護シ至情至誠以テ国家ノ為メニ尽瘁スベキコト

トノ決議案ヲ朗讀シ満場之ヲ是認セリ

次キニ小田切哲次郎ノ祭文朗讀瀬戸荒熊ノ弔詞石坂昌孝会員總代ノ焼香アリ終テ懇親会（鮨一折煎餅一袋）ニ移リ奥野市次郎濱名信平ノ席上演説アリテ午后二時四十五分無事閉会セリ而シテ出席者中ノ重立チタル者左ノ如シ

西村 淳藏	中島又五郎	高木栄太郎	石坂 昌孝	渡辺勘十郎
後藤亮之助	佐藤 貞幹	中村 克昌	宮部 襄	林 包明
奥宮 健之	青山忠右エ門	磯辺太郎兵エ	井手 毛三	金井 貢
吉田 朝太郎	土居 一郎	秋山 正作	添野 正造	井上 隆治

細野喜代四郎　山ノ内一正　小橋榮太郎　深山　聳峙　永井嘉六郎

駒林　廣運　廣岡宇一郎　鈴木稻之輔　瀬戸　荒熊　比留間邦之助

仙波　兵庫　新井　章吾

乙秘第四一九號　九月十八日

九州同志會懇親會

本日午後五時頃ヨリ江葉館ニ於テ開キタルガ出席者三拾名ニシテ席上楠本正隆ハ憲政党ハ日本ノ一大政党ナリ然ルニ之ヲ組織ナシタルニハ九州大ニ與テ力アルハ事實上ニ於テ明ナリ故ニ亦其中堅トナリ飽マデ之ヲ輔翼シテ鞏固ナルヲ謀ラザルベカラズ近頃ニ至リ憲政党ハ分裂スルトカ或ハ内訌アルトカ世間ニ於テ喋々スレ共斯ルコトハ断シテナシト云フニ憚ラズ然レ共政府ニ於テ未ダ實行ヲ擧ゲストカ或ハ党員中ニ猟官運動ノ爲メ紛擾ヲ生シ居ルトカ云フテ非難スル者アリト雖モ之レラハ微々タルコトニシテ取ルニ足ラス然シナガラ政府ニ不都合アレバ何處迄モ責メサルベカラズ故ニ九州ハ正ヲ以テ憲政党ヲ輔翼シ其鞏固ヲ謀ルハ實ニ吾々ノ希望スル所ナレバ幸ニ諸君

モ同意アランコトヲ請フ處デアル而シテ茲ニ懇親会ヲ開キタル所以ハ我同志者モ近頃上京セラレタル者モアリテ亦タ党ノ内部ノ事情モ分ラザルコトモアランカト依テ今日此ノ会ヲ開キタル次第ナリ云々ト多田作兵衛ハ曰ク過日ノ集會ヲ開キタル際ニ憲政党ノ事情ヲ九州地方ノ有志者ニ知ラシメン為メニ松田正久君總務委員ノ出席ヲ請フテ九州大會ヲ開カント既ニ二三ノ同意者ニ通知シ藤金作ハ其レカ為メ帰縣ナシタルカ本部ノ大会モ切迫ナシ居ル今日ナルヲ以テ九州大會ヲ開クハ如何ノモノナルヤ其可否ヲ決定シタシト云ヒシモ到底今日ハ松田君其他ノ者ニ於テモ繁忙ノ為メ出席スル能ハザルノ時ナルヲ以テ一時中止スルコトニセントテ之ニ決セリ武富時敏ハ曰ク同志カ会合スル毎ニ料理店其他ニ會スルハ無益ノ費用ヲ要スルヲ以會合所ヲ借受テハ如何トノコトナリシガ多田作兵衛ハ之レニ

乙秘第四二一號　九月十八日

小中村楼ノ秘密會

昨十七日午後三時ヨリ浅草小中村楼ニ憲政党旧進歩派代議士
島田三郎　大津淳一郎　浅香克孝　堀越寛介　岡野寛
星野勘左衛門　星松三郎　高梨哲四郎　初見八郎　四宮有信
小山久之助　福田久松　山田泰造　大塚成吉
ノ拾三名集会シ秘密ニ協議ヲ為セリ而シテ其要領ハ
旧進歩自由ノ両派其他ヲ打シテ一丸ト為シタル今日ニ在ツテハ各派互ニ相背馳スルヿナク倶ニ全一ノ方向ニ進マサルヘカラサルニ関東ニ於ケル自由派ハ専恣ニ出テズ更ニ関東倶楽部ト称スル團体ヲ組織シ他派ノ入團ヲ許サヽルカ如キハ実ニ憲政党組織ノ精神ニ背クモノナリ自由派ニシテ已ニ如斯ナル以上ハ吾々モ亦全志ヲ糾合シテ別ニ一團体ヲ組織シ大ニ之レカ牽制ヲ為サヽルヘカラズ云々
トス了ニ在リテ尚ホ来ル二十二日頃更ニ會合協定スルヿニ決シ仝五

時ニ至リ酒宴ヲ開キ仝八時四十分散会セリ

要

警視総監西山志澄

大隈総理大臣殿

親展

ル現
多年
其妨
ルナラバ
旨ニ
上京
ハ許、

乙秘第四一七號

愛媛憲政党員ノ動静　九月十七日

憲政党愛媛倶楽部員村松恒一、高橋秀臣等カ目下起草中ニ係ル現内閣ニ對シ呈出スル建白書ノ要旨ヲ聞クニ内閣員ノ不統一ナルヨリ多年ノ言責ヲ実行スル能ハス閣員中ニ改革実行ノ妨害トナルベキモノハ其妨害者ヲ除去スルニ加カズ若シ之レヲ為シ得サル大隈総理大臣ナラバ無為無能ノ内閣ナルヲ以テ速カニ総辞職ヲ為スベシト云フ意旨ニ在リ右ニ付愛媛憲政党支部ヨリ来ル十九日二名ノ委員ヲ上京セシメ当局大臣ヲ訪問勧告スルコトニシ昨十六日鈴木重遠ノ許ヘ電報アリタリト云フ

大隈総理大臣殿

親展

大隈内閣總理大臣殿

必親展

警視總監西山志澄

中西正樹

鳩山和夫

大内暢三

高橋橘三郎

吉田俊雄

西郷吉義

甲秘第一一五五號

清國人梁啓超、王詔及從僕張順ハ麹町區平川町三橋常吉方ヨリ牛込區市ケ谷加賀町壹丁目二番地柏原文太郎方ヘ移轉スヘキ處該家ハ極メテ狹隘ナルヨリ同區早稲田鶴巻町四十番地高橋琢也所有家屋ニ一昨廿二日中西正樹同道ニテ移轉シタリ移轉後同所ヘ訪問面會シタルモノ如シ

徐勤　林北泉　羅孝高　鄭晟禮

梁永年

目下梁啓超、王詔ハ病氣ナルヲ以テ當分ノ内外出セス且ツ右訪問ノモノヽ外一切面會ヲ謝絶スルコトニセリト

中西正樹　大內暢三　犬養毅　高田早苗

鳩山和夫　高橋橘三郎　吉田俊雄　西郷吉義

小林某　平山某

右及申報候也

明治三十一年十月廿四日

警視總監　西山志澄

大隈内閣総理大臣　殿

大隈総理大臣殿

必親展

警視総監西山志澄

ノ故障アルニ就テハ辞退セザルヘカラズト述ベシモ三枚等ハ今中
止スルニ於テハ中島派ノ有志ニ對シ面目ナシ断然一候補者タルコト

勧 余 者 者 ハ 決 次 右 子 郎 谷

乙秘第三三四号　八月六日

府下第三區新候補者（第二報）

中澤彦吉ハ候補者タルニ意ナキモ中邑派及公同會ノ切ナル勧告ニ依リ幸ニ当選スルノ僥倖ヲ得バ敢テ之ヲ辞セザルベシト余リ虫ノ善キ挨拶ナリシモ第三區中澤ヲ措キ外ニ恰当ノ候補者ナク殊ニ騎虎ノ勢之ヲ中止スル能ハズ福原有信ヲ以テ候補者タル岩谷松平ニ其ノ旨ヲ通ジ思ヒ止マラシメントシタルニ松平ハ大ニ憤怒シ直チニ京橋銀行有志者ノ集會所ニ馳セ至リ中沢彦吉、三枝與三郎、田村藤兵エ、佐藤作二、中村弥助、松尾清次郎ニ對シ自分ハ實業家ノ候補者タルニ自分ヲ措キ別ニ候補者者ヲ立ルトハ何事ゾ又中澤君モ当選セバ承諾スベシ抔トハ男子ノ所為ニアラズ何ゾ公然ト發表セザルト嚴談シ中澤ハ喜谷市郎右ヱ門来ラバ相談ノ上返答セント答ヘ窃カニ三枝等ニ對シ岩谷ノ故障アルニ於テハ辞退セザルベカラズト述ベシモ三枝等ハ今中止スルニ於テハ中邑派ノ有志ニ對シ面目ナシ断然候補者タルコヲ

發表シ岩谷ニモ其ノ旨返答スベシト述ベタルモ右ノ状況ナルヲ以テ
未ダ公然ノ發表運動ニ着手スルノ運ビニ至ラズ

警保局長小倉久

内務省用

大隈總理大臣殿

急必親展

秘

秘

當選報告　第十四回

三重縣

第三区　一〇七六　憲元進　△和波久十郎

次点　九七二　無　森茂生

第五区　二人　一七六二　憲元進　△森本確也

一四六一　憲元進　△尾崎行雄

次点　三八一　憲元自　奥野市次郎

仝　一四三　竹原樸一

廣島縣

第一区　二人　一〇一三　憲元自　串本康三

八三〇　憲　宮原幸三郎

大隈総理大臣殿

次点　七〇八　憲　元進　藤田高之
仝　四三　憲　元自　佐々木高栄

第三区　八一五　憲　元進　△金尾稜厳
次点　三二一　憲　元自　野平穣

秘

當選報告　第五回

東京府
第十區　八九二　憲　元進　△堀田連太郎
次点　二五　無　相沢喜兵衛

宮城縣
第五区　四九一　憲　元進　△首藤陸三
次点　二八〇　無　伊沢作治

熊本縣
第五区　九九九　憲　元自　△松岡長康
次点　二　深水頼寛

第六区　二三一　國　△小崎義明
　　次点　一六二　無　中西新作

栃木縣
第三区　七六四　憲 元進　△田中正造
　　次点　四六　無　木村半兵衛

廣島縣
第二区　七〇九　憲 元自　△小田貫一
　　次点　二〇　仝 元進　小鷹狩元凱

愛媛縣

第五区　六一三　憲　元進　△清水静十郎
次点　二四　清水隆德

兵庫縣
第六区　二三〇一　憲　元進　△西村真太郎
次点　一七　仝　元自　河合半介

新潟縣
第六区　八七二　憲　元進　△牧口義方
次点　七　関矢儀八郎

栃木縣

第四区　一三〇九　憲 元進　山田武
次点　一一五　無　安藤小次郎

兵庫縣
第十区　一〇三三　憲 元自　△高津雅雄
次点　八四七　仝　仝　濱田儀一郎

京都府
第六区　六七〇　憲 元進　△神鞭知常
次点　二六四　無　上野弥一郎

福島縣

第二区　一五一三　憲　元進　△安部井磐根
次点　七四　仝　平島松尾

富山縣

第一区（人二）　三〇三五　憲　元進　△内山松世
三〇〇一　仝　仝　金岡又左エ門
次点　一六七　仝　仝　金山従革

山口縣

第三区　七二八　國　△大岡育造
次点　二　無　雑賀敬二郎

福岡縣

第四区 一二七二 憲 元自 △野田卯太郎

次点 五九 仝 佐々木正蔵

第六区 九五一 憲 元自 △永江純一

次点 二〇 仝 仝 立花親信

埼玉縣

第五区 六二三 憲 元自 △持田直

次点 一三八 仝 元進 荻野六郎

新潟縣

第一区 一四九一 憲 元自 齋藤和平太

次点　三〇　仝　仝　松井倉蔵

岐阜縣

第二区　一一九七　無　片野篤二

次点　一二　憲　元進　松野祐次郎

第六区　一三四〇　憲　元自　△前島文之助

次点　四二三　國　青木達四郎

宮城縣

第一区　一五八七　憲　元進　△藤沢幾之輔

次点　一一　無　早川智寛

島根縣
第六区 六二 無 原田赳城
次点 四二 國 長田文次郎

愛媛縣
第三区 四八四 憲 △重岡薫五郎
元自
次点 六 公 井上要

福岡縣
第一区 一三二三 憲 △平岡浩太郎
次点 六一 児玉韞

熊本縣
第二区 七二四 無 松尾又雄
次点 六一三 國 村上一郎

岡山縣
第五区 六八四 憲 元進 東良三郎
次点 四九八 仝 元自 矢吹重耀

大阪府
第七区 一四一一 國 △出水弥太郎
次点 一四〇六 憲 元進 東尾平太郎

長崎縣
第二区　八四一　憲　元進　△今村千代太

群馬縣
第二区　二七八　憲　元自　金井貢
次点　二三五　仝　元進　荒川高三郎

三重縣
第四区　一七八六　憲　元進　大石正巳
次点　四二七　仝　元自　奥野市次郎

石川縣

第二区　九〇三　憲元自　△中田弥平
次点七〇九　仝仝　西田彦平
第四区　五八二　憲元進　橋元勗
次点四一七　無　竹内席松

東京府
第十一区　一三八四　憲元進　△浅香克孝
次点七　無　橋本省吾

山口縣
第五区　三五一　國　△熊代慷三郎
次点七九　野村喜太郎

和歌山縣

第二区	一三七〇	憲 元自	千田軍之助
次点	一一八	無	望月右内

福岡縣

第五区	二三二八	憲	△佐々木正蔵
次点	一五		師富進太郎

佐賀縣

第三区	一七三二	憲 元進	永田佐次郎
次点	六		二位景暢

大隈總理大臣殿

至急

必親展

警視總監西山志澄

東京府各選舉區開票ノ結果（但郡部）

區	候補者氏名	得点数	無効	投票総数	候補者以外ノ得点者及其得点数
十區	堀田連太郎	八九二	○	九三一	相澤喜兵衛、二五、宮武南海、五、宮本穎三、四 外一点五人
十一區	浅香克孝	一、三八四	四	一、四〇七	橋本省吾、七、島田三郎、三、島田弥左衛門外八名各一点
十二區	高木正年	三三〇	一	六二〇	川上音次郎、四、鳥山貞次郎、二、加藤為太郎、一、
	平林九兵衛	二八二			
十三區	青木正太郎	一、一一三	七	一、三八八	比留間雄之助、二六五、中村克昌、五一、森久保作蔵、四七、西山八郎、一三、田村半十郎、一二、外十点以下ノ者二十九人
	村野常右衛門	一、一八二			

明治三十一年八月十一日　警視廳

至急